

交通Bulletin

2008年 春季号, No.17

発行日：平成20年4月14日
 発行：日本大学工学部
 社会交通工学科教室
 ☎ 047-469-5239 (教室事務)
 発行責任者：天野光一 (教室主任)
 編集担当：伊東 孝・福田 敦・伊東英幸・
 田中絵里子
 制作：株式会社 ムーンドッグ

DEPARTMENT OF TRANSPORTATION ENGINEERING AND SOCIO-TECHNOLOGY · COLLEGE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY · NIHON UNIVERSITY

■ CONTENTS ■

巻頭言：天野光一……………	1	平成19年度 行事報告	
平成20年度 研究室紹介……………	3	卒業研究発表会……………	37
平成19年度 博士論文・修士論文・卒業研究……………	13	修士論文審査会……………	37
平成19年度 教員の研究・活動 (2007. 1. 1~2008. 3. 31)		卒業式・学位記伝達式……………	37
研究業績……………	16	学位申請論文発表会……………	38
社会的活動……………	28	社会交通工学科協議会……………	38
学外学術活動……………	32	平成19年度 就職状況……………	38
海外出張……………	34	[TOPICS]	
外部研究資金の受入状況……………	35	新任の先生に聞く！ —1年間を振り返って—……………	2
受賞……………	36	教員の移動……………	36
平成19年度 学生の受賞等 (2007. 1. 1~2008. 3. 31)……………	36		

巻頭言 — 伝統を踏まえつつ、新たな展開を目指して —

社会交通工学科教室主任 教授 天野光一

平成20年度が始まった。社会交通工学科にとっては新たな展開を目指す段階に入ったいわば記念すべき年度といっても良い。2006年に主任交代にあたって書いた拙文や前号の新コース設置の重なる部分もあるが、繰り返しを覚悟の上で、社会交通工学科（設立当初は交通工学科）の設立趣旨、歴史、現在の状況、そして将来への展望について、私見を述べたいと思う。

当学科は、昭和36年（1961年）に交通工学科として誕生した。経済白書において「もはや戦後ではない」といわれた昭和31年に、我が国の高速道路建設を検討するためにワトキンス調査団が来日、日本の道路事情を調査し、ワトキンス・レポートが出された。そこには日本の道路事情を語る有名な"The roads of Japan are incredibly bad. No other industrial nation has so completely neglected its highway system."「日本の道路は信じがたい程に悪い。工業国にして、これ程完全にその道路網を無視してきた国は、日本の他にない。」という文章が記述されていたのである。これを受けて同年道路公団が設立され、昭和33年新道路構造令の制定（新道路法の制定は昭和27年）と我が国の発展のため道路建設は急激に進むこととなる。このような我が国の状況を受けて、我が交通工学科が設立されたものと小生は理解しているし、またその後道路づくりを含む国土建設や交通計画、まちづくりや地域計画などさまざまな分野で十分な役割を果たしてきたとも考え

ている。その後の社会情勢の変化に伴って、昭和54年（1979年）に交通土木工学科に、また21世紀に向かって平成13年（2001年）には社会交通工学科に名称変更をしている。このような状況の中、平成14年（2002年）からのカリキュラムで、JABEEの認定を受け、平成19年（2007年）の卒業生からはJABEE（日本技術者教育認定機構）認定プログラムの修了者となることになった。すなわち、何度か改正を繰り返してきた本学科のカリキュラムが、大学などの高等教育機関が行う技術者教育プログラムとして要求水準を満たしていることを国レベルの外部機関が認めたということであり、同様のカリキュラムで学んだ卒業生諸氏、在学生、そして教員全員が誇りに思っただけでよいことであると考えている。ただし、特に教員はこの状況に甘んじることなく、研鑽を積み教育改善の努力を行うとともに、新たな方向性を模索することが求められていることはいうまでもない。更にJABEE認定を受け



社会交通工学科
 JABEE認定技術者教育プログラム

※ JABEEに認定されたプログラムが使用できるロゴマークです。
 「since2006」は2006年度卒業生から認定されることを意味しています。

ることには大きな付録といってよい特典がある。社会交通工学科の卒業生（2007年以降）は卒業と同時に修習技術者（技術士一次試験免除、登録すれば技術士補になれる）の資格を持つことができる。卒業生諸氏にとっては当然のことであると思うが、公共事業に関わる技術者にとって技術士の資格は極めて重要な資格であり、その一次試験が免除されることは非常に有利なことといえる。

このように本学科のカリキュラムはJABEEの認定を受けたわけであるが、更なる改革を考慮した結果、本年度（平成20年度）の入学生のカリキュラムから、新コースを設置し、従来を踏襲する社会交通エンジニアリングコースと新設する社会交通マネジメントコースの2コースのカリキュラムとなった。道路公団や空港公団の民営化やNPO設立など、民営によるインフラ運営が多くなっていること、交通事業者による地域開発や観光開発、さらには旅行ビジネスが盛んであること、国際交流の活発化や観光政策の重点化も叫ばれ、交通にとっては欠かせないキーワードとなっていることなど、変革しつつある現在の状況を踏まえ、設立30周年時にまとめられた交通、都市、環境の3つのキーワードを中心に、経営的視点や国際、観光の視点を加えて、総合的な交通運用、都市運用を教える新コースを設置することとしたわけである。社会的評価についてはこの新コースの卒業生が社会に出てからのことになろうが、新コース検討の中で本学科の卒業生の方

との議論の中で十分に期待できるというご意見もいただいております、十分に期待してよいものと考えている。また、JABEE認定のプログラムに改革を加えたわけではあるが、新カリキュラムの卒業生が出るまでには2コース1プログラムという形で継続認定されるものと信じている。

少子化による志願者の減少もあり、理工学部レベルでも、再編の議論が出ている。社会交通工学科は、JABEE認定、新コースの設立などの新しい動きが評価されてか、平成20年度の入学生は、平成19年度に比べて増加している。しかし、いまだ志願者が少ないことは否めない状況であり、再編の議論の際には厳しい状況になることが予測される。しかしながら、人々が生活を営んでいる以上は、交通は必ず存在し、より良い環境、住みよい都市を求めていることは間違いない。拙文のタイトルにも挙げたように、伝統を踏まえつつ、新たな展開を目指し、一層の努力を怠らず、かのフランシス・ベーコンも「知は力である」と言っているように、社会に貢献できる「知」を持つ技術者を生み出す教育を行ってれば、我が学科に将来は必ず存在していると考えます。

最後に、卒業生を含めた拙文を読んでいたいただいた皆様に、社会交通工学科の独自性、優位性を、高校生を含めた社会にぜひ紹介していただきたいとお願いしたい。フランシス・ベーコンはまた「沈黙は愚者たちの美德である」とも言っているから。

TOPICS

新任の先生に聞く！ —1年間を振り返って—

空間情報研究室 佐田達典先生 インタビュー

Q1. はじめに、この一年間を振り返った感想をお願いします。

第一期生となった今年の4年生は、非常に個性に溢れ、元気のある学生が多く、活気のある教育・研究活動ができました。また、多数の卒業研究を指導するということが初めてだったので、私自身も勉強になりました。

Q2. 研究室を持たれて最初の一年でしたが、卒業研究とゼミナールはいかがでしたか？

卒業研究とゼミは、基礎的なことで学生のやりたいことを中心にテーマを決めました。とくに卒研は一生に一回のことなので、自分たちで決めさせようとしたのですが、テーマが決まるまで半年程かかってしまい、最後は大急ぎでまとめました。ただ、その分、じっくりとストーリーを練ることができたので、オリジナリティのある論文となって良かったと思います。また、前からの仕事仲間の人たちが、研究室に遊びに来てくれたり、一緒に実験を手伝ってくれたりしたので、大変助かりました。

Q3. 来年の抱負は何ですか？

研究面では、今年の実験を中心とした基礎的な活動しかできませんでした。来年度はもっと幅広く、論文発表やイベントへの参加など、精力的に活動していきたいです。また、より交通に直結するような研究テーマをやってみたいと思っています。



Q4. 最後に学生へのメッセージをお願いします。

みんな若くてポテンシャルをもっているのだから、ぜひ自分の持ち味を生かして活躍してほしい。社会に出ればいろいろな困難に直面すると思いますが、負けずにそれを乗り越えるしぶとさを身につけてほしい。また、来年はもっと面白い学生に会えるのではないかと期待しています。私自身も若い学生さんにパワーをもらって成長していきたいと思っています。

今回のインタビューでは、多くの学生から慕われている佐田先生の人柄だけでなく、研究や教育への熱い思いも感じることができました。今回はお忙しいところ、インタビューにご協力頂きまして有難うございました。

（インタビュアー：伊東英幸）

道路交通 研究室

安井一彦 准教授



3年生は交通工学に関するゼミ、TOP（交通技術資格）に合格するためのゼミ、就職試験対策としての各種講座、4年生は交通工学に関するゼミと卒業研究のミーティングを行っています。大学院生は、修士論文を進める一方、各学会での活動や民間・官公庁からのさまざまな共同研究などを行っています。交通信号制御に関して研究を行っている、わが国でも数少ない研究室です。

道路交通研究室では、道路上に起こりうるあらゆる現象について研究を行ってきました。しかし、まだ解明されない現象がたくさんあります。これからも幅広い視野をもって、道路交通の効率・安全に向けて、研究に励んでいきます。研究室の詳細については、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/ROADTRA/IE/itop.html>

●卒業研究テーマ

- ・踏切連動信号制御の導入効果に関する研究
- ・踏切での一時停止義務の廃止によって生じる課題と対策
- ・クリアランス時間の適正化に関する研究
- ・ジレンマ抑制制御の導入効果に関する研究
- ・歩行者優先信号制御に関する研究
- ・高速道路における道路線形と実勢速度に関する研究

●ゼミナール・テーマ

- ・交通工学関連知識のマスター（TOP資格の取得）
- ・プレゼンテーションツールの学習

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通流理論、交通制御の単位を取得、もしくは受講しており、交通問題に強い関心を持っている学生。



研究室HP



交通流解析

▷ PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

踏切での車両の一時停止を免除した場合に発生する問題点と、解決策に関する研究をしています。皆さんご存知でしょうか？ 踏切での一時停止が法律によって義務付けられているのは、世界でも日本と韓国だけです。韓国は日本の道路交通法をそのまま導入したのが理由のようですが、実態は全く一時停止をしません。欧米では「徐行」の義務や、スクールバスなどに一時停止を課している州があるものの、乗用車には一時停止の義務はありません。また、既存の調査結果では、一時停止により踏切の交通容量は約40%低下するとされており、都市部の踏切での交通渋滞も大きな問題となっています。

日本では、毎日約5千万台の車両が一時停止を行っており、一時停止による燃料消費量は年間約51万キロℓ、1ℓを150円とすれば、796億円と試算されます。燃料消費に伴って発生する二酸化炭素の量は年間118万トン・CO₂であり、運輸部門で2012年までに目標とする削減量の約17%に相当する量になります。

平成17年度に踏切で発生した交通死亡事故は約80件ありますが、その大半が車両と歩行者、自転車によるもので、列車に関わるものは6件です。この6件のうち、一時停止無視が原因とされるものは皆無であり、ほとんどが車両の直前進入や、エンストによるものです。

将来的には交通分野での世界標準をにらみ、一時停止を免除し「徐行」とする必要もあります。そのことで、莫大な量の燃料の節約、二酸化炭素の発生を大きく削減できるだけでなく、交通容量の拡大も図られるからです。そこで、踏切での一時停止を免除した場合に発生する問題点について明確にし、その対策案を立案する研究を継続しています。



一時停止義務のない踏切（ドイツ）

交通環境 研究室

藤井敬宏 教授



道路や都市を対象とした社会基盤整備の評価、ならびに交通環境の改善に向けた対策方法の研究を進めています。環境の視点では、社会基盤整備を行う際の環境の保全や創造を図る方法論や計画論を検討しています。また、交通の視点では、地域の交通改善計画や交通バリアフリー化に向けた対策・評価方法の検討を行っています。

平成19年度のゼミナールは、修士課程M2が3名、M1が1名、卒研生7名、3年ゼミ生7名、総勢18名が在籍し、毎週行っているゼミナールに加えて、研究室内の卒業研究発表会を年3回、卒業研究の各種調査、韓国へのゼミ旅行、ならびにソフトボールやフットサル等のスポーツを交えてゼミ活動を行いました。

●卒業研究テーマ（予定）

- ・地方都市の公共交通整備による交通環境改善効果の評価に関する研究
- ・荒川区における交通環境の整備手法に関する研究
- ・富士宮市の大規模店舗の増床計画に伴う周辺交通への影響に関する研究

- ・武蔵村山市のコミュニティバス再編計画の評価に関する研究
- ・横田基地の軍民共用空港化計画における交通インフラの整備に関する研究
- ・自動車排出ガス規制に伴う環境改善効果と影響に関する研究
- ・都市計画道路の見直しにおける課題と整備優先順位に関する研究
- ・バリアフリー環境の整備に関する研究

●ゼミナール・テーマ

①グループディスカッション

- ・ビデオ・ニュースを題材とした環境・都市・交通問題
- ・審査会（平成19年度：都市になぜ人が集まるのか？と国際化を進めるためには、何をすべきか？）

②横田基地の軍民共用空港化の検討調査

- ・横田基地の概要調査、周辺交通への影響等の調査およびまとめ

③交通や社会問題に関する文献の輪読

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通問題に関心をもち、ワークショップやフィールド調査にも積極的に参加する意欲があること。



研究室フットサル大会：
ゼミ生（大学院・卒研生・3年生）の仲間意識アップ



ゼミ旅行（ソウル）：
韓国京畿大学 呉先生と学生さんたちとの交流



3年生ゼミ：
グループディスカッションでファシリテイト能力アップ



4年生ゼミ：
卒研中間発表にて研究真剣モードでピリピリ

▷ PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

1. 自動車NOx・PM法およびディーゼル車走行規制による効果と影響

大都市圏を中心に大気汚染の改善を図るため、自動車NOx・PM法およびディーゼル車走行規制が施行されている。トラック事業者は、この法・条例により低公害車の新規購入やDPF装置装着等、環境対策を講じ、同時に経済的な負荷が課せられることとなった。そこで、法・条例の施行に伴うトラック事業者の規制対策および環境対策について、①適用地域内・外、②都市圏別、③距離帯別、④企業規模別、の4つの視点で比較し、今後の法・条例適用地域拡大などのさらなる大気汚染改善策を検討している。

2. バリアフリーにおける市民参加型の計画手法

交通バリアフリー法とハートビル法を統合したバリアフリー新法が制定され、基本構想策定時の当事者参加やソフト施策の充実等が求められている。本研究では、千葉県市原市および東京都港区をケーススタディとして市民参加型の計画手法について、①基本構想策定時の市民意識の変化、②基本構想策定後の活動と取り組み方法、を調査し、市民活動として発展・継続させる方法について提案している。

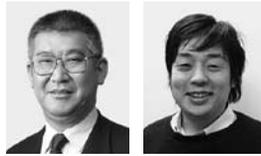
3. 地方都市の公共交通整備と富士市におけるDual Mode Vehicleの利用計画

地方都市では、自家用車の利用傾向が高く、公共交通事業者の経営を圧迫し、廃業に至るなどデススパイラル型の悪循環を生じている。このような状況の中、富士市では、JR北海道で開発され、道路と線路の両方を走行可能な新たな公共交通サービスへの質的転換が期待されているDMVを市の基幹交通とした導入を検討している。本研究は、公共交通ネットワークにおけるDMVの活用方法について検討している。

環境工学 研究室

岩井茂雄 教授

宮本 守 助手



本研究室では『環境』をキーワードにいろいろな問題に取り組んでいます。また、協力し合い、明るい雰囲気の中でさまざまな学内外の活動にも積極的に参加し、日頃の研究成果の一端を紹介しています。

現在は主に沿道環境の改善のために、タイヤ/路面騒音の低減に関する研究、路上雨水の浄化技術の開発、透水性舗装による都市環境改善の研究、歩きやすい舗装に関する研究、舗装マネジメントシステムの支援技術開発などを行っています。

平成19年度は、博士前期課程1年生1名、卒業研究生8名、ゼミ生9名の総勢18名により、6月：船橋市環境フェア、7月：理工学部・オープンキャンパス、10月：国土交通省関東技術事務所・建設技術展、さらに11月には理工学・習志野祭（学部祭）などのイベントに参加し、研究や学習の一端を一般の方に紹介すると同時に、学外の人々との交流も広く行ってきました。また学外のシンポジウムや環境調査への参加などを通じてOBとの交流も深めています。

学外での環境問題の認識や現状を理解し、さらには卒業研究などの集中討議を行うために毎年ゼミ旅行を実施しています。平成19年度は箱根方面に出かけ、沿道環境の現状の勉強などを行いました。

●研究テーマ

- ・タイヤ/路面騒音に関する研究
- ・路上雨水の浄化技術の開発
- ・歩きやすい舗装路面に関する研究

・舗装路面からの蒸発量の測定技術開発など

●ゼミナール・テーマ

- ・環境のとらえ方
- ・快適性について
- ・道路交通環境について
- ・大気質の調査方法について
- ・水質の調査方法について
- ・騒音・振動の調査方法について
- ・沿道環境対策について
- ・環境白書を読んで

など

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特にありませんが、研究テーマやゼミナール・テーマ、その他環境工学に関わる問題に興味をもち、自主的に活動できる方を望みます。



理工学部オープンキャンパスでの説明



船橋市環境フェアで研究の一端を紹介



ゼミ旅行（箱根）



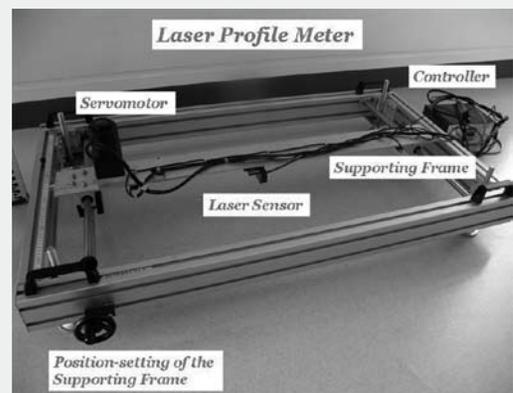
習志野祭で研究の様子を説明（研究室）

▷ PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

舗装路面の状態を示すために、「路面の凹凸度やその分散」、「ひび割れ度」、「わだち掘れ深さ」、「平坦生」さらには「路面の補修面積」などといったマクロな視点からの物理量が取り上げられています。そして、これらを単独もしくは複数組み合わせて舗装のパフォーマンスを表す指標、例えばPSI（舗装のサービス指数、AASHO）やMCI（路面の劣化を示す指標、国土交通省）など、を求めて舗装の維持管理に利用されています。今後、舗装マネジメントシステムを構築する上で、重要な物理量や指標になります。

一方、ミクロな視点から舗装路面の特徴を表そうとする場合、「路面の粗さ（テクスチャ、肌理（きめ）などとも言います）」がよく用いられています。路面粗さは、走行車両の安全性や燃費、タイヤ/路面騒音の発生特性、歩き易さなどに大きく関与します。これは、大まかに言えば路面粗さとタイヤや履き物との摩擦の関係と見なせます。一般的に路面粗さは、路面の微少な凹凸の状態を示す物理量（凹凸の深さ、凸部の間隔、凸部の尖頭の程度など）により示されています。

マクロからミクロな舗装路面の状態を把握するために、赤色レーザーを用いた路面性状計測装置（プロフィールメータ）を試作しました（写真参照）。この装置は、水平方向ピッチ0.1mm毎に700mm×450mmの範囲を連続的に測定できるもので、マクロからミクロな路面性状データをパソコンに取り込めるようにしたものです。この装置により舗装路面の摩擦特性との関係を調査しています。また、舗装マネジメントシステムへの適用を進めているところです。



レーザープロフィールメータ

空間情報 研究室

佐田達典 教授



空間情報研究室では、空間情報工学が対象とする衛星測位システム（GPS）、地理情報システム（GIS）、リモートセンシング（RS）などをベースに、これらの技術に共通する「ポジショニング」という概念を核として、交通・建設分野への応用を目指した研究活動を進めています。先端的な測量機やセンサを応用して位置や形状を計測・解析・可視化する研究であり、移動体（歩行者、車両）の測位や交通施設整備への応用を目指しています。

平成19年度は、卒研7名、ゼミナール生8名の総勢15名が在籍し活動をしました。7月のオープンキャンパスでは高精度GPSによる「宝探しゲーム」を行いました。8月にはGPSとレーザースキャナー（周辺地形を高速に計測する装置）

を使って船橋キャンパス内の道路と建物の測量を実施し、キャンパスの3次元可視化モデルを作成しました。

●卒業研究テーマ

- ①高精度GPSによる移動体測位の研究
- ②GPSとGLONASS（ロシア）を併用した衛星測位の研究
- ③GPSと水準測量によるジオイド高の推定
- ④衛星の可視性をシミュレーションするシステムの研究
- ⑤RFID（ICタグ）を使った屋内測位の研究
- ⑥レーザースキャナーによる路面形状分析
- ⑦レーザースキャナーによるアニメーションを用いた街路景観シミュレーション

●ゼミナール・テーマ

GPS、写真測量、リモートセンシングの仕組みについて専門書の輪講を行います。また、交通調査や情報化施工に関する論文の講読を行い、専門的知識を高めます。

●卒業研究・ゼミナール着手条件

特にありません。



レーザースキャナーによるキャンパス測量



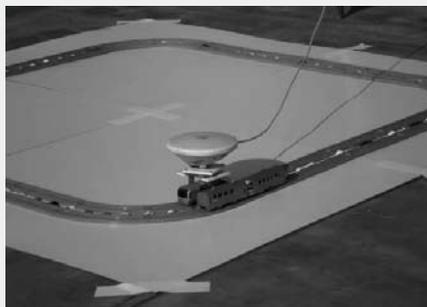
キャンパスの点群データによる可視化

▷ PICK UP ▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀

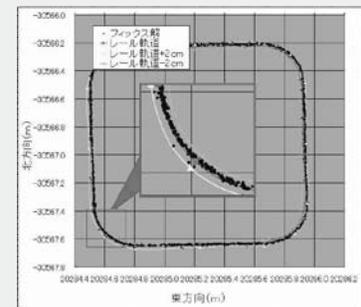
RTK-GPSによる移動体測位に関する基礎的研究

カーナビゲーションで用いられるGPS測位は単独測位と呼ばれ、精度は10m程度です。一方、同じGPSでも測量で使用する干渉測位では10mmの精度で測位が可能です。この干渉測位は主にアンテナを固定して基準点の位置を測る測量に利用されてきましたが、近年、動きながら高精度に測位できるRTK-GPS（リアルタイムキネマティックGPS）と呼ばれる方法が実用化されてきました。RTK-GPSは地形測量や路線測量で使用されるほか、建設機械や農業機械の管理・制御などにも応用されています。しかしながら、RTK-GPSの測位特性についてはこれまで固定測位の研究が主であり、移動体測位の研究はほとんどされていません。そこで本研究では、移動体測位の基礎的な特性を明らかにすることを目的に、写真のように模型電車の上にアンテナを搭載してレールの上を移動させながら連続した測位データを収集しました。そのデータを平面図にプロットすると設計軌道に対して約20mmの精度であることがわかりました。ただし、衛星数が少ないと精度が1m程度まで低下することが課題です。

今後、RTK-GPSはカーナビゲーションの高度化、自動運転などを指す上で重要な要素技術と考えられることから、さらに研究を進める予定です。



模型電車による実験



測位軌跡図

デザイン 研究室

伊澤 岬 教授

江守 央 助手



毎年、船橋日大前駅で開催している「卒業・修士設計展」は昨年第5回を迎え「プロフェッサー・デザイナーの軌跡展」をメインテーマとして研究室主宰者の作品展を開催しました。3回目の「景観デザイン教育展」と併せて当学科のデザイン教育・活動を総合的にアピールすることができました。同時に卒業設計作品展を開催し、他大学からの見学者を含め多くの反響をいただき、またマスコミにも広く取り上げていただきました。本年は、キャンパスと隣接する八千代市や東京都の小金井市でのまちづくりの実践を継続的に進めてきた成果を展示し、ミニワークショップなどの開催も予定しております。

また研究室では学内外の、さまざまなコンペに応募し、学生諸君も果敢にチャレンジしております。

●卒業研究テーマ

設計テーマ：

1. ユニバーサルデザイン(都市、交通、公園、建築の総合化)
2. 防災都市構想
3. 交通空間のデザイン

論文テーマ：

1. 地形に読む都市・境内・キャンパス
2. 交通空間のユニバーサルデザイン

3. 観光ユニバーサルデザイン

- ①坂のまち・雪のまちにおける観光UD
- ②世界遺産の観光UD

4. 都市と防災

- ①東京湾の防災都市
- ②自然災害と世界遺産

5. 交通バリアフリーと市民参加のまちづくりの関連についての研究

6. 障がい者に配慮した都市模型の作製に関する研究

7. 地域福祉輸送の提案に関する研究

●ゼミナール・テーマ

- ・各種デザインコンペへの参加
- ・都市・交通空間ウォッチング
- ・ワークショップの企画・運営

●卒業研究、ゼミナール着手条件

設計をテーマとする人は、景観設計・構造デザイン受講者、および受講予定者

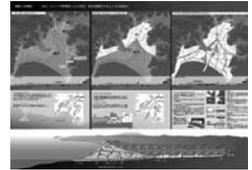


写真1 水没コンペ「鎌倉水都構想」



写真2 お茶の水キャンパスの活用応募案「お茶の水ユニバーサルシティセンター構想」

▷ PICK UP ◀▶▶▶ 代表研究の紹介 ◀◀◀◀

1. 交通空間のデザインと実践

ヨーロッパの終着駅は「出会いと別れ」そして「待つ」空間として、都市の劇場にも例えられるような豊かな空間を有す、一方で日本では人々の乗降を早くすませ、人々が早く流れるように合理的に計画されて魅力的な駅はわずかでした。近年駅に限らず、空港・客船ターミナルでも魅力的な施設が数多く出現しています。このような中で私たちは3つの駅のデザインに携わり、1駅は鉄道建築協会の最優秀賞を受賞し、残る2駅は設計競技によって入賞しました。このような交通空間の計画やデザインコンペなどに参画し、あるべき交通空間の創出を目指しています。

2. 観光ユニバーサルデザイン

世界遺産、坂のまち、雪のまちにどのように障がい者らがアプローチできるかという観光ユニバーサルデザインという概念が考え始められてきました。これはバリアフリー新法によって交通から建築・公園にまでその対象が拡大し、いずれは国土全体への拡大が求められるなか、観光という特殊解のベクトルでそのアクセスを考える視点です。具体的には京都の社寺仏閣境内の地形分析や、小樽、呉、秋田で地元住民とともにまちづくりを展開しています。

3. バリアフリー新法における公園づくり —都立小金井公園をモデルとして—

現在、小金井市においては、JR中央線の連続立体交差事業により、武蔵小金井駅南口の再開発事業、東小金井駅北口の土地区画整理事業などさまざまな事業が進行しています。この一体的なまちづくりでバリアフリー化は大きな課題です。とくに敷地規模の大きい都立小金井公園は、その大部分が小金井市に位置し、鉄道駅などから徒歩圏にないことやアクセスを自家用車に依存しているなどの交通の問題を抱えています。そこで、市民とともに作るユニバーサルデザインの公園を目指し、小金井市や東京都公園協会の協力のもとバリア発見のワークショップ開催や防災対応の提案などを行ってきました。

今後は、これらに基づき、あるべき公園像について日本に誇るUD公園のモデルとして、防災・運用のシステムづくりなどの整備を含めて、市民・行政との連携のなかから改修整備を進めていく予定です。

京都・醍醐寺の地形模型
(ゼミ1生作成)

WSでの市民との議論の様子



都市施設のバリアフリーの範囲と研究対象範囲

交通景観 研究室

天野光一 教授

横山公一 助手



●研究室の目標、研究分野

究極の目標

・「美しい国土、住みやすい地域、都市をつくる」

研究内容

後述の3分野を基本に、加えてその間の学際的な研究を目指す。

- ①景観分野：本研究室の基本的な研究分野である。居心地のよさをも含むが、極論すればどのようにしたら美しい風景を創造できるかを研究する。
- ②観光分野：観光とは国の光を観ることである。景観を含む国の光をどのように創造し、どのように見せるかを研究する。
- ③交通分野：人が存在するところ必ず交通は生じる。交通空間・施設をどのようにつくりあげるか、また住みやすさを保障する交通はどのようなものかを研究する。

●研究室に向く人、向かない人

・向く人

景色を見るのが好きな人、本を読むのが好きな人、議論をするのが好きな人、旅行が好きな人、雑学にたけている人、人のために何かできる人

・向かない人

偉くなりたい人、本といえば漫画の人、体育会系でなければ気のすまない人、成績が良いのが偉いと思っている人、研究室にくると就職が有利になると思っている人、あいさつのできない人

●卒業研究テーマ

- ・景観原論
- ・景観計画・設計論
- ・交通空間・施設の計画・設計関係
- ・都市史関係（アジアの都市を含む）：景観、交通、観光等に視座をおいた都市開発史研究、過去の・観光計画関係
- ・地域づくり関係
- ・都市計画関係

●ゼミナール・テーマ

- ・専門書、論文の輪読
- ・現地見学、調査
- ・計画設計実務にかかわる調査
- ・ディベートの実施 など

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特になし

情報工学 研究室

中山晴幸 専任講師



●研究室紹介

情報工学研究室では、交通に関連する情報を中心にさまざまな取り組みをしています。例えば、人間の生体データや車両のデータなど計測データを各種センサから得て、移動体通信を利用したデータ転送とweb処理技術などを組み合わせて分かりやすく表示する技術を利用しています。

ゼミナールでは、前期に情報処理技術に関する資格の勉強を行い、後期にはさまざまなデータを利用した動的なホームページを製作する技術を学びます。ゼミナールの成果には、学科ホームページにリンクされている「船橋日大前駅の発車案内」があります。この情報は携帯電話からも検索できますので、是非試してください。

●代表的研究の紹介

代表的な研究テーマ例として以下に2例を挙げます。

1. 運転疲労検知システム

このシステムは、長距離を運行する大型トラックドライバーの運転疲労を検知するシステムです。さらに、実用化に向けた実証実験を明穂輸送(株)、トナミ運輸(株)などの協力を得て実施しています。また、この検知システムのデータを管理する「ドライバー疲労管理システム」も研究・開発して、ドライバーの健康管理を含めた安全管理システムづくりを目指しています。

2. 歩きやすさを考慮した経路案内システム

このテーマは、高齢化により階段の上下や長い距離をできるだけ避けて歩くための情報を提供するシステムの構築です。とくに空間把握しにくい地下鉄構内の経路案内を「歩きやすい経路」というキーワードで検索できるシステムの研究を行っています。東京都内とその近郊にある地下鉄全駅（275駅）の歩行環境調査を実施し、それらデータをデータベース化して、歩きやすさを水平距離で評価することにより、最適経路として利用者に情報提供できるものです。すでにこのシステムのプロトタイプを研究室のホームページで公開しています。

●卒業研究テーマ

- ・運転疲労検知に関する基礎的研究
- ・トラックドライバー疲労管理システムの構築
- ・歩行者シミュレーション・モデルの構築
- ・年齢を考慮した歩きやすさ評価について
- ・歩きやすさを考慮した地下鉄経路検索システムの構築
- ・鉄道駅の乗換案内標識に関する基礎的研究
- ・公務員試験に関するデータベースおよびe-Learningシステムの構築

●ゼミナール・テーマ

情報処理技術に関する基礎知識およびPHPを利用したダイナミックなホームページの制作

●卒業研究、ゼミナール着手条件

着手条件はプログラミングを修得したか、受講中の学生がのぞましい。



ドライバー疲労検知システムを装着したトラック

運輸交通計画 研究室

轟 朝幸 教授



当研究室では、「活力ある国土・地域づくりのために交通をマネージする」ことを目標として研究を進めています。キーワードは「交通まちづくり」「インターモーダリズム」。交通まちづくりとは、地域の交通施設や交通サービスを改善して、生活や産業活動をサポートし、地域を元気にしようとする概念です。交通まちづくりの‘まち’は空間的広がりを意味し、国土や地方、都市、街などを包含しています。インターモーダリズムとは、道路や鉄道、バス、空港・航空・港湾・船舶といった陸海空のあらゆる交通手段を有機的につなぎ、時空間的にまた料金等サービス面においてもシームレスな移動を可能にしようとする概念です。インターモーダリズムの確立を目指し、交通まちづくりを実践するための理念、政策、理論、技法などについてフィールド調査や社会実験などを実施しながら研究を進めます。

●卒業研究テーマ（予定）

- ・インターモーダリズムの確立
- ・公共交通（鉄道、バス、LRTなど）による地域活性化
- ・地域ITSによる公共交通活性化
- ・公共交通利便向上のための情報提供の高度化
- ・公共交通のマーケティング戦略
- ・都市間公共交通の地域格差分析

- ・空港運営の効率評価と事業戦略
- ・国際観光流動の動向と観光交通計画（航空輸送やクルーズ船による周遊観光）
- ・交通エコロジー啓発活動の確立

●ゼミナール・テーマ（予定）

- ・運輸業界の動向をバーチャル株取引から学ぶ
- ・TOP [交通技術資格者]、SPI、TOEICなどの試験対策
- ・交通計画などに関する文献レビュー

●卒業研究、ゼミナール着手条件

原則として「交通システム計画」「交通需要予測」「数理統計学」を履修

これまでの卒論・修論の概要やゼミ旅行などのイベント、学会発表参加などの研究室活動実績はホームページをご覧ください。 <http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp/PUBTRPLAN/>



写真1 バスと自転車道（コペンハーゲン）



写真2 客船シリアライン（ヘルシンキ）



写真3 カストラップ空港（コペンハーゲン）



写真4 フロム山岳鉄道（ノルウェイ）

739-D号室

交通システム 研究室

福田 敦 教授

石坂哲宏 助手



交通システム研究室では、さまざまな交通問題へシステム工学的アプローチによって取り組むことを基本としています。問題に応じて数理計画的手法に基づくモデルやシステムの開発を行い、これらを交通問題が深刻な開発途上国の交通状況の解析や交通政策・交通プロジェクトの評価の問題に適用し、実際に問題解決に貢献することを目標としています。

最近では、地下鉄やBus Rapid Transportなど導入が交通走行状態や温室効果ガスの排出に与える影響を分析するための利用者均衡配分法、ITS技術を活用して交差点やバス・救急車の運行を高度に制御するシステムを評価するための交通流シミュレーションモデル、プローブカーを活用した交通情報システムなどの開発に取り組んでいます。また、交通安全を推進するためのヒヤリ地図の作成や二輪車用ライディングトレーナーやシミュレーションモデルの開発についても取り組んでいます。

これらの研究は各国の大学の先生や学生あるいは政府関係機関など共同研究という形で進めています。本年も、タイのコンケン大学、ウボンラチャタニ大学などの研究グループと共同で研究を進めています。

●卒業研究テーマ

- ・Bus Rapid Transport導入によるCO₂削減量の推計方法の検討

- ・公共交通利用者を対象とするカーボンオフセット導入の可能性の検討
- ・公共交通導入によるCO₂削減量のライフサイクルアセスメント（LCA）による評価
- ・スアブン国際空港におけるCO₂排出削減対策の検討
- ・バイオ燃料を前提とする交通社会の成立可能性の検討
- ・緊急車両優先信号制御システムの導入に向けた緊急車両の走行挙動の把握
- ・バス運行改善のための高度な信号制御システムのシミュレーションによる評価
- ・那覇市におけるトランジットモール実施の事後評価
- ・プローブ情報システムによる旅行時間推定の信頼性に関する研究
- ・混合交通下でのオートバイ走行シミュレーションモデルの開発
- ・オートバイライディングトレーナーの開発

●ゼミナール・テーマ

小グループ毎に対象都市を選び、そこでの具体的な交通問題を取り上げて、現地調査や現地大学との議論を通してそれを解決するための計画案を提案する。計画案作りの過程を通じて、現況調査の方法や各種の数理計画的手法・モデルを活用した計画案の分析方法を学習する。成果については、レポートを作成し、講評会を行う。なお、平成20年度は、チェンマイ市（タイ）、ウドンタニ市（タイ）などを対象とする予定である。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通問題の解決に関わる職業につくことを希望している者。社会基盤計画学、交通システム計画の受講を推奨。

水環境システム 研究室

吉川勝秀 教授



川からの都市再生、自然と共生する都市・流域圏の再生（形成）、国土のマネジメント、さらには河川や湖沼、海などの水・物質循環や生態系、広域生態複合（ランドスケープ）に関することについて、国内外を対象として実践的な研究を進める。

●卒業研究テーマ

- ・川からの都市再生、川のユニバーサルデザイン、川での福祉・医療・教育など
- ・自然と共生する流域圏・都市の再生（形成）シナリオ（国内外）
- ・東京ベイエリアの水と緑のネットワーク形成、都市再生
- ・沿岸域の河川、干潟等での生態系と生態場の関係の研究
- ・総合的な治水対策（国内外）、水害等での災害弱者対策など
- ・人口急増地域の持続可能な水資源政策シナリオ（海外）
- ・流域圏・湖沼での水・物質循環と生態系の解析
- ・河川舟運と都市再生
- ・システムとしての堤防論に関する研究

その他、学生の希望するテーマを幅広く受け入れ、実践的に指導する用意がある

●ゼミナール・テーマ

卒業研究と同様のテーマを設定し、調査・検討・研究する

ことを想定している。

卒業研究と同様に、学生の希望するテーマを幅広く受け入れ、実践的に指導する用意がある。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

卒業研究の学生については、卒業研究のみならず、大学院まで研究・学習を継続する意欲のある学生を優先したい。意欲的で、継続して着実に研究を遂行できることを条件として指導したい。研究成果は対外的に発表する。

ゼミナールについても、意欲的で、継続して着実に取り組むことを条件に指導したい。ゼミナールで取り組んだ成果は対外的に発表することを目指す。



ドイツ・デュッセルドルフのアウトバーンの地下化と水辺・都市再生

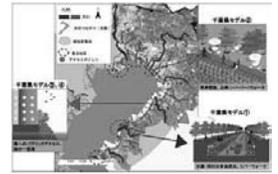
韓国・ソウルの道路撤去と河川・水辺再生



大阪：道頓堀川、大川からの都市再生、舟運の再興



東京首都圏の流域圏と都市、東京湾



水と緑のネットワーク形成の提案

都市環境計画 研究室

伊東 孝 教授

田中絵里子 助手



都市環境計画研究室では、「まちづくり」（都市計画）、「けしき」（景観工学）、「未来への贈りもの」（歴史遺産）を三本柱にしなが、歴史遺産を活かしたまちづくり計画（観光計画をふくむ）と実践、産業・土木遺産のデザイン分析と提案、都市のミュージアム論などに取り組んでいます。

●まちづくり

21世紀は、20世紀型のスクラップ・アンド・ビルドの開発手法に代わって、まちのストック—歴史的な蓄積—を活かしたまちづくり（歴史遺産を活かしたまちづくりや観光計画、都市のミュージアム論）と地域の活性化が求められています。これらの実践の一環として、過去10年間、鞆の浦（広島県福山市）での住民参加型調査と提案、また4年前からは、日本の動く橋の代名詞になっていた「勝鬨橋をあげる」ことにも取り組んでいます。

●環境・景観・美

都市空間の快適性や美の追求、あるいは歴史的景観や文化的景観の潜在的な価値を見出し、価値を顕在化させる計画づくりなどを調査・研究・提案します。

●歴史遺産

歴史遺産を文化遺産として保存し、価値を維持するだけでなく、価値を向上させながら、現代的に活用する企画・計

画づくりが求められています。そのためには、先人の築いてきた優れた産業・土木遺産の調査・研究、知られざる産業・土木遺産の発見と評価方法のあり方、顕在化計画などをおこないません。自治体などの調査はもとより、国の史跡や重要文化財、世界遺産の調査などにも取り組んでいます。

●卒業研究テーマ

- ・まちづくり、まちづくりファンド、住民参加・市民参加（NGO、NPO）
- ・歴史的文化的景観
- ・遺産論：世界遺産、文化財、土木遺産、産業遺産
- ・遺産を活かした観光計画
- ・博物館学
- ・都市のミュージアム論
- ・東京論、東京の都市計画史
- ・東京湾のウォーターフロント計画と事業史
- ・江戸の橋・東京の橋
- ・東アジア、東南アジアの研究

●ゼミナール・テーマ

- ・文献調査と現地調査の訓練と実際
- ・問題解決学演習と学会での発表

●卒業研究、ゼミナール着手条件

卒業研究を景観分野でおこなう学生は、「景観設計」を受講ないし受講予定であること。

交通計画第二 研究室

高田邦道 教授

小早川 悟 専任講師



交通計画第二研究室では、従来から交通技術をベースにした交通計画の構築を目指して研究を進めています。具体的には、「地区交通計画」、「物流施設計画」、「都市交通計画」などの方法論を成果として挙げてきました。この中で解き切れていない問題として、「路上駐車中路外への排除」、「公共交通システム構築のためのアクセス支援」、「地区物流計画の構築」、「車抑制のための住民判断への情報提供方法論」、「自転車・バリアフリー導入による道路整備計画」、「交通事故対策への科学的アプローチ」等々が挙げられています。これらの問題を、『地球環境を考える交通技術』という視点から解いていこうと考えています。

特に、「安全」を目指した社会システムの必要性に鑑み、「交通事故半減プロジェクト」運動とその技術的サポートに取り組んでいます。具体的には、千葉県鎌ヶ谷市における面的な交通安全対策や千葉県市川市における交通安全対策支援システムの適用可能性について検討を行っています。

さらに、平成18年度からは、道路交通法改正により実施された違法駐車取り締まりの民間委託制度導入によって、ドライバーの駐車行動がどのように変化したのかという分析を行っています。

構造工学第二 研究室

柳沼善明 教授

斉藤準平 助手



構造工学第二研究室では、コンクリートについて構造面、材料面および環境面から研究を行っております。また課外活動として現場見学や「君は卵を守れるか」コンテストなどを実施しております。

9月のゼミ旅行では、ピーエス三菱の技術研究所（神奈川県小田原市）を見学しました。普段は見ることのできない技術開発の最前線の研究や、我が国初のプレテンション方式PC（プレストレストコンクリート）橋の長生橋（1952年から石川県七尾市にて供用後、2001年に撤去）、我が国初のポストテンション方式PC桁の東京駅プラットホーム桁（1953年から約20年間供用、改良工事に伴い撤去）等の貴重な展示資料を見ることができ、とても良い経験になりました。また、見学後は箱根（強羅）まで足を延ばし、温泉や観光（大涌谷）を満喫しました。

11月の「君は卵を守れるか」コンテスト2007では、おもしろい作品が多く集まり、とても楽しいコンテストになりました。コンテスト後は恒例のおでんパーティーを行いました。

卒業研究では新材料による多機能コンクリートの開発や、橋梁構造形式の一つである外ケーブル方式PC橋梁について、実験と解析から破壊に対する安全性や設計方法の検討等を行っています。なお、解析には非線形有限要素解析を用いて

●卒業研究テーマ

- ・改正道路交通法施行1年後における路上駐車実態調査
- ・路上駐車取締り強化による貨物車の駐車実態の変化
- ・多用途混在地域における路上駐車の実態分析
- ・わが国への勤務地駐車課金の適用可能性に関する考察 —東京都立川市を事例として—
- ・千葉県鎌ヶ谷市東初富地区における交差点ランプの交通工学的効果
- ・交通事故多発交差点における対策のための調査とその考察 —千葉県市川市南大野地区を事例—
- ・千葉県鎌ヶ谷市における高齢者の外出実態
- ・交差点隅角部における自転車の走行実態
- ・大規模地震発生に対する問題認識の実態

●ゼミナール・テーマ

- ・高田邦道教授による講義「これからの交通工学」等
- ・小早川専任講師による講義「研究活動の進め方」等
- ・「交通技術必携」の輪読および発表
- ・非常勤講師の先生方による特別講義
- ・セミナー、シンポジウム、講習会等の参加

●卒業研究、ゼミナール着手条件

交通総論、ソーシャル・ロジステックス、交通現象解析Ⅰ、交通現象解析Ⅱを受講していること。

破壊までの挙動解析を行っています。

●卒業研究テーマ

- ・新材料を用いた多機能コンクリートの開発
- ・外ケーブル方式PC橋梁の破壊に対する安全性
- ・劣化・損傷した鉄筋コンクリート構造物の損傷度診断技術
- ・交通施設構造物に及ぼす火災の影響
- ・社会資本の維持管理

●ゼミナール・テーマ

コンクリートに関する随筆やパンフレットを読み、新形式橋梁の建設記録のビデオを観て、コンクリート全般についての知識を豊かにします。さらに、新しい構造形式の橋梁について、構造上の特徴や景観などについて学びます。

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特になし。



日本初のプレテンションPC桁（長生橋）ピーエス三菱技術研究所内にて

基礎力学 研究室

下辺 悟 准教授



本研究室は、人間生活を営むうえで最も重要な一つである「土」を主な研究の対象としていることから、次のような三つのキャッチフレーズを掲げている。

◎最新センサーを用いた地盤環境・防災のモニタリング技術！

◎環境にやさしい多孔質天然素材の有効活用！

◎得体の知れない土を科学する！

・研究室の場所 7号館1階7110室

・研究室の構成員 下辺 悟 准教授、大学院生2名・卒研究生7名（平成19年度実績）

●主な研究テーマ

◎ADR土壌水分計の実用性と地盤防災の検知技術への応用

◎多孔質天然素材の材料特性と土木・環境分野への有効活用

◎地盤環境モニタリング

◎緑化基盤土の植栽機能とそのモニタリング手法

◎フォールコン法による土の実用的分類の構築とその工学的利用

●ゼミナール・テーマ

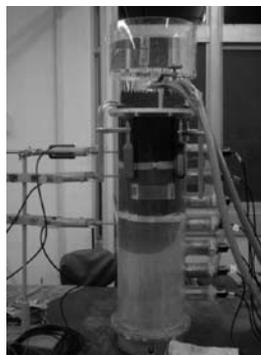
・多孔質天然素材「珪藻土、備長炭、竹炭、ゼオライト、麦飯石およびピーナッツの殻」を科学する

・怖い「地盤災害」とその防災対策

・環境および土の基礎実験、建設現場・研究所見学

●卒業研究、ゼミナール着手条件

主な研究テーマが地盤材料の基礎・基本ならびに地盤防災・環境地盤工学への応用に関するものなので、興味のある方ならどなたでも大歓迎です。



モデル地盤環境の水分移動モニタリング



環境緑化のための植栽機能モニタリング

地盤工学 研究室

巻内勝彦 教授

峯岸邦夫 専任講師



平成19年度は、大学院前期課程1年生が2名、卒研究生（4年生）が7名、ゼミナール生（3年生）が8名、計17名でした。卒研究生の半分以上が他研究室からの移籍組でしたので例年とは雰囲気は異なっていましたが、1年間にぎやかでした。

卒業研究では、継続研究の交通施設に係わる地盤の力学特性のほかに歩道路面の歩き易さの評価や受託研究2件（斜面緑化における短繊維混合補強土工法、コンクリートブロック舗装下に敷設するジオシンセティックスの耐久性評価）をテーマにして行いました。

学生の動きとしては、すでに2007年秋号で報告しましたが、7月21日にテレビ朝日系の『タモリ倶楽部』が企画した“今地盤が熱い！ 学生対抗ソイルタワーコンテスト”に参加しました。また、10月6日には(社)地盤工学会関東支部主催の第2回ソイルタワーコンテスト（学生参加の行事）が船橋校舎2号館地下の地盤材料系実験室で開催されました。今年も当研究室から選手と運営スタッフとして大学院生2名と4年生が3名参加しました。Artistic（芸術）部門1位、総合3位の好成績を納めました（詳細については、2007年秋号をご参照下さい）。10月20日には、横浜国大にて開催された関東大学地盤研究室対抗ソフトボール大会に参加しましたが、今年残念ながら予選リーグで敗退でした。また、10月31日～11

月1日前橋市内で開催されました(社)地盤工学会関東支部発表会にて、大学院前期課程1年生の山中君が「軽量盛土材発泡ウレタンの変形特性に及ぼす荷重速度の影響」について発表を行い、優秀発表者賞を受賞しました。

●卒業研究テーマ

- ・発泡ビーズ混入軽量化地盤材料の工学的特性
- ・斜面緑化用短繊維混合土の工学的特性
- ・繰返し荷重下における舗装用ジオシンセティックスの耐久性評価
- ・火山灰質粘性土の物理的性質に関する統計的性質—関東ロームの自然含水比—
- ・歩行路面のテクスチャーとウォークビリティの評価—路面の反発係数・転がり抵抗係数・車椅子乗り心地—
- ・地盤構造物壁面材の交通騒音低減—簡易式吸音特性評価—

●ゼミナール・テーマ

- ①トランスポーターションジオテクノロジー（交通施設の地盤工学）とは？
- ②地震・大雨等による地盤災害と地盤技術
- ③地盤構造物への新素材・新材料 ④地盤環境技術
- ⑤性能設計法入門（これからの国際標準設計法）
- ⑥魅力あるアースデザイン
- ⑦地盤構造物を含む交通施設のバリアフリーに関する講話
- ⑧フィールド・トリップ（地盤の観察、現場見学など）

●卒業研究、ゼミナール着手条件

特に設けていません。



平成19年度 博士論文・修士論文・卒業研究

博士論文

【論文博士】

発泡ビーズを混入した軽量化地盤材料の工学的特性

主査：巻内勝彦 教授、副査：岩井茂雄 教授、林 重徳 教授（佐賀大学）

峯岸邦夫

「土地」と「歴史」を重視した近代土木遺産の評価視点に関する研究

—「第一次発電水力調査」（明治43～大正2年度）を軸として—

主査：伊東 孝 教授、副査：天野光一 教授、吉川勝秀 教授、大熊 孝 教授（新潟大学）

堀川洋子

【課程博士】

開発途上都市におけるCO₂排出量制限の下での最大トリップ数に関する研究

主査：福田 敦 教授、副査：高田邦道 教授、天野光一 教授、島崎敏一 教授

ウティクル ゴジャシ

災害時における情報伝達手段としての車車間通信の利用に関する研究

主査：福田 敦 教授、副査：高田邦道 教授、泉 隆 教授、轟 朝幸 准教授

室井寿明

修士論文

面的な交通安全対策の効果

—千葉県鎌ヶ谷市東初富地区を事例として—

指導：高田邦道 教授

宮代泰貴

タイのコミュニティにおける交通安全活動でのヒヤリ地図づくり活用の提案

指導：福田 敦 教授

岡村 誠

バス事業におけるマーケティング戦略4Pの実態に関する研究

指導：轟 朝幸 准教授

阿部光治

都市間公共交通サービスによる移動効率の地域格差分析

指導：轟 朝幸 准教授

荒谷太郎

駅タクシープールの混雑課金制度に関する研究

—JR千葉駅東口を対象として—

指導：轟 朝幸 准教授

鈴木孝幸

地方鉄道存続検討協議会における協議円滑化に関する研究

—階層分析法を利用して—

指導：轟 朝幸 准教授

谷澤悠輔

都市鉄道における混雑情報提供による乗車変更行動の分析

指導：轟 朝幸 准教授

松田博和

自動車NO_x・PM法およびディーゼル車走行規制による効果と影響に関する研究 —規制方法に伴う環境対策の比較—

指導：藤井敬宏 教授

佐藤 壮

地方都市における公共交通整備に関する研究

—富士市のDMV利用計画について—

指導：藤井敬宏 教授

樋口恵一

バリアフリーにおける市民参加型の計画手法に関する研究

指導：藤井敬宏 教授

山岸靖典

公開空地境界部における歩行者の行動特性及び認識に関する研究

指導：天野光一 教授

青木一史

箱根における周遊ルートのシーケンス景観に関する研究

—視点近傍の空間に着目して—

指導：天野光一 教授

藤野公尋

商業施設の設置形態からみた駅空間の魅力に関する研究

指導：天野光一 教授

松村雄喜

雪国北海道における観光ユニバーサルデザイン

—ケーススタディ：坂のまち小樽の場合—

指導：伊澤 岬 教授

大島淳之

鎌倉・防災都市壁構想

指導：伊澤 岬 教授

則本弘明

印旛沼における水質悪化要因の分析と水質改善案の検討

指導：吉川勝秀 教授

大関祐次郎

多孔質天然素材を用いた水質浄化機能に関する研究

指導：下辺 悟 教授

竹中 聡

卒業研究

■ 交通景観研究室（天野光一 教授）……………

クアラルンプール都市圏の都市発展に関する基礎的研究

山室和士【岸上明子】

千葉県における都市計画と防災計画の関連性に関する研究

井草 透【岸上明子】

景観計画における海洋・海岸景観への配慮に関する一考察

—神奈川県7市町を対象に—

石川 学【岸上明子】

神奈川県下における景観法成立以前と以後の景観計画の比較

梅村真嗣

高所からの眺望景の魅力に関する研究

加藤雪子

【 】は共同論文指導

仮想市場評価法によるエキナカへの価値・魅力に関する研究

宇津木里沙

金沢における寺院の立地特性に関する基礎的研究

葛西あゆみ

鉄腕アトムから考察する未来の交通施設

大和千尋

特命全権大使が見た欧州の社会基盤施設に関する研究

鳴津彰子

千葉県の海岸におけるレクリエーションに関する研究

高橋身奈

■ **デザイン研究室** (伊澤 岬 教授).....

3Dスキャナーを用いたキャンパス街路の整備優先順位に関する研究 米屋貴博
 バリアフリー新法における公園整備に関するワークショップの実践 大河原健
 市民参加型まちづくりの変遷に関する基礎的研究 高柳圭吾【横山 哲】
 まちづくりにおける市民参加の法的構成に関する基礎的研究 田中太樹【横山 哲】
 新潟・チャンネルシティ構想 今井尚之
 栃木・水生構想 大澤 崇

■ **都市環境計画研究室** (伊東 孝 教授).....

CSTキャンパスおよび周辺の地域形成史
 —CSTミュージアムでの展示を目指して— 川又 樹
 理工系博物館の展示内容と方法に関する研究
 —交通系博物館を事例として— 武井秀一
 土木遺産の登録有形文化財の利活用に関する研究 松澤祥吾
 市民参加型まちづくりに関するコンサルタントの意識調査 藤山直也
 橋への魅力に対する意識変化に関する研究
 —東京下町の橋を対象として— 大沼史成、竹村恭平
 トラベルコスト法を用いた瀬の浦の観光地としての魅力の評価 小幡大次郎
 近年の道路整備事業におけるピオトーブ造成に関する実態調査 福原秀和

■ **環境工学研究室** (岩井茂雄 教授).....

路面粗さと摩擦の相関性に関する検討 鈴木博之
 舗装路面の弾力性評価方法に関する研究 山崎 崇
 路面からの蒸発量の簡易測定法の開発に関する基礎実験 中野洋平、米本貴一
 電界および磁界下の砂層による酸性イオンの吸着効果について 飯田貴浩、野口智彦
 道路交通騒音を受けている沿道居住者の就寝時の心証調査 勝野博輝、川瀬基樹

■ **空間情報研究室** (佐田達典 教授).....

RFIDを用いた移動体検知に関する基礎的研究 高田恭宏
 RTK-GPSによる移動体測位に関する基礎的研究 江上翔悟
 GPSとGLONASSを併用したRTK測位に関する研究 川口拓哉
 GPS／水準法とジオイドモデルによるジオイド傾斜算出に関する研究 沖田孝介
 3次元レーザースキャナーを用いた路面形状計測に関する研究 石塚 隆

衛星の可視性を評価するシミュレーションシステムに関する基礎的研究 福森秀晃
 3次元レーザースキャナーを活用した街路の歩行シークエンス景観評価に関する研究 重信兼史

■ **基礎力学研究室** (下辺 悟 准教授).....

ADRおよびテンションメータ法による地盤防災のモニタリング検知技術の検討 小川 悟、鈴木貴宏
 室内模型地盤における水分量・サクシヨンのモニタリング 野見山裕章
 多孔質天然素材による水質浄化機能の検討 小森崇裕、宮川 創
 緑化基盤土の物理化学的性質と植栽機能に関する研究 武田和士、村岡裕輔

■ **交通計画第二研究室** (高田邦道 教授・小早川 悟 専任講師)

改正道路交通法施行1年後における路上駐車実態調査 笠置典央
 路上駐車取締り強化による貨物車の駐車実態の変化 三好洵人
 多用途混在地域における駐車施策に関する研究 吉村 彩
 わが国への勤務地駐車課金の適用可能性に関する考察
 —東京都立川市を事例として— 吉田理恵
 千葉県鎌ヶ谷市東初富地区における交差点ハンプの交通工学的効果 石川玲美
 交通事故多発交差点における対策のための調査とその考察
 —千葉県市川市南大野地区を事例として— 佐藤 恵
 千葉県鎌ヶ谷市における高齢者の外出実態 高山一裕
 交差点隅角部における自転車の走行実態 錦城孝太郎
 大規模地震発生に対する問題認識の実態 齊藤春香【木戸伴雄】

■ **運輸交通計画研究室** (轟 朝幸 准教授).....

自治体側・利用者側からみたコミュニティバスサービスの効率性に関する分析 一條友希
 都市鉄道におけるブランド戦略の構築と管理に関する研究
 —東葉高速鉄道を事例として— 古賀隆之
 セグウェイ導入による走行環境への影響と課題 西尾新平
 旅客機の中・小型化による空港の運用と環境への影響に関する分析 —大阪国際空港を対象として— 松田俊彦
 路面電車における混雑予報Webサイトによる情報提供システムの開発 水野隆二
 中高生を対象とした自転車の交通安全教育の有効性
 —スケアード・ストレイト的教育手法の導入— 山形祐治

■ **情報工学研究室** (中山晴幸 専任講師).....

運転疲労検知に関する基礎的研究 日高拓也

トラックドライバー疲労管理システムの構築
山崎陽司

歩行者シミュレーション・モデルの構築
山本泰裕

年齢を考慮した歩きやすさ評価について
菊地信太郎

歩きやすさを考慮した地下鉄経路検索システムの構築
千葉優一

鉄道駅の乗換案内標識に関する基礎的研究
堀江郁夫

公務員試験に関するデータベースおよびe-Learningシステムの構築
鈴木俊介

■ 交通システム研究室 (福田 敦 教授)……………

高速道路における追従走行データに基づく追従挙動の解析
大野武男【下川澄雄】

混雑路線の交差点を対象とした救急車両優先信号制御方式の検討
萬井健太

トリップベースで算出されたプローブカー必要混入率から実台数への換算に関する基礎的研究
高橋潤一郎

公共交通指向型開発に伴う交通需要の増加がBRTの旅行時間に与える影響の分析
鈴木正樹

確率的フロンティアモデルを用いたバンコクにおけるオートバイ・タクシー事業の経営効率性に関する分析
谷 亮太

開発途上国における混合交通下でのオートバイ走行シミュレーションモデルの構築
石田祐介

タイで二輪車ドライビングシミュレータに用いるためのVR交通空間の作成とその再現性の評価
平野正偉

タイ・コンケン市における沿道大気汚染物質排出量規制下での最大トリップ数に関する研究
川上貴章

■ 交通環境研究室 (藤井敬宏 教授)……………

港区のバリアフリー対策における住民参加に関する研究
高橋知行

防災対策としての社会福祉施設の活用に関する研究
一船橋市の都市部を例として— 川崎真人、近藤由利子

富士宮駅周辺地域における交通実態分析に関する研究
大竹政慶

富士市の共生エリアにおけるバス施策に関する研究
榎木達郎

武蔵村山市における市民ニーズを考慮した市内循環バス (MMシャトル) の路線設定に関する研究
森 大地

自動車NOx・PM法およびディーゼル車走行規制の適用状況とトラック事業者の環境対策に関する研究
小室俊和

■ 地盤工学研究室 (巻内勝彦 教授)……………

発泡ビーズ混入軽量化地盤材料の工学的特性
折原靖明

斜面緑化用短繊維混合土の工学的特性
市川嘉一

繰返し荷重下における舗装用ジオシンセティックスの耐久性評価
佐藤 剛、和田充弘

火山灰質粘性土の物理的性質に関する統計的性質
—関東ロームの自然含水比— 延島啓仁

歩行路面のテクスチャーとウォークビリティの評価
—路面の反発係数・転がり抵抗係数・車椅子乗り心地— 相川高広

地盤構造物壁面材の交通騒音低減 —簡易式吸音特性評価—
井上雄太

■ 構造工学第二研究室 (柳沼善明 教授)……………

人工ゼオライトを用いたモルタルの流動性と圧縮強度
近藤奈穂、志村美沙

超軽量コンクリートを用いた外ケーブル方式T形はりのせん断挙動
五位野敏男、櫻井琢磨

模型RC床版の曲げ挙動
首藤和貴

外ケーブル工法箱桁橋における定着部の破壊実験
武岡智紀

橋梁の維持管理に関する研究
糸賀美雪、小菅 恵

■ 道路交通研究室 (安井一彦 准教授)……………

四日市市におけるムーブメント制御の効果と課題
田中博之

歩行者優先信号制御の高度化と効果の分析
黒岩和浩

交通情報板による情報提供の実態と改善策
寺沢亮一

千葉県における交通事故多発交差点の改善策に関する研究
窪川雄太

交通法規の違いと交通事故発生状況に関する研究
沢村太平

飲酒運転事故からみる常習犯の特徴と対策に関する研究
益子菜穂子【西田 泰】

首都高速道路における各種条件が走行速度に与える影響に関する研究
浦山 悟、平松正人【森田緯之】

■ 水環境システム研究室 (吉川勝秀 教授)……………

東京湾沿岸域の千葉県側における水と緑のネットワーク形成のための特性分析
神谷枝里

流域スケールにおける水と緑の空間特性に関する分析
桂川晃一

東京都心部における河川の変遷と川からの都市再生に関する研究
木村美瑛子

都市における舟運の歴史的変遷と今日的活用について
寺門晃弘

首都圏を流れる河川の利用実態と改善策に関する研究
小林恭介

都市河川におけるリバーウォークの設置に関する水理的検討
伊藤 学

研究業績

掲載誌・出版元 題目・作品名・書名 教員名など 発表年月

交通景観研究室 (天野光一 教授・岸上明子 助手)

■著書

彰国社	景観用語事典 (増補改訂版)	篠原 修 (編著) 景観デザイン研究会 (著)	07年3月
技報堂出版	みち 創り・使い・暮らす	みち研究会 (監修) 助道路空間高度化機構 (編著)	07年5月

■口頭発表

第51回日本大学理工学部学術講演会 ポスターセッション	商業都市における都市空間の形成と交通発展についての基礎的 研究 ～野田市のキッコーマン(株)を事例に～	上田 透 天野光一	07年12月
--------------------------------	--	-----------	--------

デザイン研究室 (伊澤 岬 教授・江守 央 助手)

■審査論文

11 th international conference on mobility and transport for elderly and disabled persons -TRANSED-	Research into a Common Model for Visually Handicapped and Normally Sighted Persons for Road Projects	Hisashi EMORI	07年6月
--	---	---------------	-------

■口頭発表

第33回土木計画学研究発表会(春大会)(SS11)	「すべての人のためのまちづくり」における土木技術者の教育・ 研修 ―日本大学理工学部社会交通工学科における福祉のまち づくり教育の実践について	伊澤 岬 江守 央	07年6月
第55回(社)日本工業教育協会年次大会	福祉のまちづくり教育の実践 ―日本大学理工学部社会交通工 学科における試行―	伊澤 岬 江守 央	07年8月
第10回日本福祉のまちづくり学会全国大会	地形・雪の魅力とバリアに考慮した地域づくりに関する研究 ―坂・雪のまち小樽における観光ユニバーサルデザインの展開 ―	大島淳之 伊澤 岬 江守 央 横山 哲	07年8月
第10回日本福祉のまちづくり学会全国大会	都市スケール模型による視覚障がい者の空間認識に関する基礎 的研究	江守 央 伊澤 岬 横山 哲	07年8月
第51回日本大学理工学部学術講演会	首都高速中央環状品川線換気塔代替案コンペティションに参 加・受賞して	横井亮太 伊澤 岬 江守 央 大島淳之	07年12月
第3 回景観・デザイン研究発表会	ポスター発表「日本大学社会交通工学科におけるデザイン製図 教育の応用2 ―中部地方建設局における景観設計基礎研修―」	伊澤 岬 江守 央	07年12月

■その他 (報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

日本大学本部主催「お茶の水キャンパス活用 等の提案」	お茶の水ユニバーシティセンター構想	伊澤 岬 狩野博尊 岩坂照之 江守 央	07年5月14日
日本文化デザイン会議主催「水没コンペ」	鎌倉水都構想	伊澤 岬 江守 央 則本弘明 大島淳之 今井尚之	

都市環境計画研究室 (伊東 孝 教授・伊東英幸 助手)

■著書

Conservation of Large Scale Structures National Research Institute for Cultural Properties pp. 37-50	Conservation and Utilization of Modern Cultural Heritage	Takashi Itoh	07年
--	--	--------------	-----

■査読論文

Journal of Lowland Technology International (LTI) Vol. 9 No. 2 pp. 8-14.	ASSESSMENT OF ARTIFICIAL ENVIRONMENT FOR REPRODUCTION OF FOREST GREEN TREEFROG ALONG NIKKO-UTSUNOMIYA ROAD USING HABITAT EVALUATION PROCEDURE	Hideyuki ITO, Atsushi FUKUDA	07年12月
---	--	---------------------------------	--------

■口頭発表

土木史研究 Vol. 27 pp. 139-150	“発電ダム”からみた「第一次発電水力調査」(明治43～大正2年度)の意義に関する考察 —3基の革新ダム(大井・小屋平・塚原ダム)の発電方式の推移に焦点をあてて—	堀川洋子 伊東 孝	07年6月
環境アセスメント学会 2007年度研究発表会	米国カリフォルニア州のミチゲーションバンキングに関する実態調査 —カリフォルニア州の事例を対象として—	伊東英幸 横内憲久 岡田智秀 福田 敦	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会講演概要集	米国カリフォルニア州のミチゲーションバンキングに関する実態調査 —サンタローザ市のバンクサイトを対象として—	伊東英幸 横内憲久 岡田智秀 福田 敦	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会講演概要集	千葉ニュータウンの変容と交通事故発生との関連性に関する実態分析	岡村 誠 福田 敦 轟 朝幸 伊東英幸 石坂哲宏	07年9月
Proceeding of the Eastern Asia Society for Transportation Studies Vol. 7 No. 100404	Study on Circumstantial Analysis of Environment Conservation Projects around Roadside in Japan	Hideyuki ITO Atsushi FUKUDA	07年9月
第51回日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション	「橋めぐりツアー」による橋の魅力に関する意識調査 —東京下町の橋を対象として—	大沼史成 竹村恭平 伊東英幸 伊東 孝	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション	鞆の浦の観光地としての魅力に関する評価	小幡大次郎 伊東英幸 伊東 孝	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション	尾道の都市形成史に関する研究	旗野宏介 松田広行 横山由佳 伊東英幸 伊東 孝	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション	兵庫県・室津港を対象とした北前船の寄港地における都市形成史に関する研究	和田翔 井坂達也 伊東英幸 伊東 孝	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション	香川県栗島を対象とした北前船寄港時における鬼瓦に関する調査	東 洋輔 伊藤知真里 中谷 宏 伊東英幸 伊東 孝	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション	歴史的港湾遺産を活用したイベント参加者の意識調査 —広島県福山市鞆港ライトフェスタを対象として—	中谷 宏 伊藤知真里 伊東英幸 伊東 孝	07年12月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	「橋めぐりツアー」の実施による橋への魅力に関する意識変化 —東京下町の橋を対象として—	大沼史成 竹村恭平 伊東英幸 伊東 孝	08年3月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	トラベルコスト法を用いた鞆の浦の観光地としての魅力に関する評価	小幡大次郎 伊東英幸 伊東 孝	08年3月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	香川県栗島を対象とした鬼瓦に関する調査	東 洋輔 伊藤知真里 中谷 宏 伊東英幸 伊東 孝	08年3月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	広島県福山市鞆港ライトフェスタを対象としたイベント参加者の意識調査	中谷 宏 伊藤知真里 伊東英幸 伊東 孝	08年3月

■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

社土木学会	吉野川第十堰技術評価特別委員会 報告書	伊東 孝 他16名	07年5月
月刊文化財 pp. 4-5	“帝都の門”永代・清洲・勝鬨橋の重要文化財を考える	伊東 孝	07年7月
東京人 pp. 20-31	対談:「東京は橋の博覧会！」	伊東 孝 陣内秀信	07年8月
BRUTUS pp. 158-161	近代名作土木の旅	伊東 孝 西山芳一	07年8月
季刊まちづくり No. 16 pp. 78-81	鞆の浦の港湾遺産	伊東 孝	07年9月
Argus-eye p. 2	勝鬨橋をあげよう！！	伊東 孝	07年10月
積算資料 No. 1137 pp. 41-45	日本の土木遺産とまちづくり・地域づくり 1 日本橋の高速道路とオリンピック	伊東 孝	07年5月
積算資料 No. 1138 pp. 17-21	日本の土木遺産とまちづくり・地域づくり 2 隠れた歴史遺産を見えるようにする	伊東 孝	07年6月
積算資料 No. 1139 pp. 17-21	日本の土木遺産とまちづくり・地域づくり 3 永代・清洲・勝鬨橋の重文指定を考える	伊東 孝	07年7月
積算資料 No. 1142 pp. 28-32	日本の土木遺産とまちづくり・地域づくり 4 鞆の浦:歴史的環境の継続性とその危機	伊東 孝	07年8月
積算資料 No. 1143 pp. 36-40	日本の土木遺産とまちづくり・地域づくり 5 『土木遺産とまちづくり』を考える	伊東 孝	07年9月
積算資料 No. 1147 pp. 28-32	日本の土木遺産とまちづくり・地域づくり 6 監獄の島:オーストラリア・タスマニアの歴史遺産 橋を起爆剤とした町おこしと保存の哲学	伊東 孝	07年11月
積算資料 No. 1148 pp. 27-31	日本の土木遺産とまちづくり・地域づくり 7 土木遺産保存への道程①『歴史的景観』から『近代化遺産』へ	伊東 孝	07年12月

CE建設業界	Vol. 44	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 北防波堤と小樽運河 —理解の鍵にぎる『みなと資料館』	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年1月
CE建設業界	Vol. 45	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 勝山 —町並みに生きる川港遺産—	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年2月
CE建設業界	Vol. 46	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 吉野川第十堰 —わが国唯一の二段式斜め堰と新知見	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年3月
CE建設業界	Vol. 47	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 村山下貯水池 —若返るアース・ダム	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年4月
CE建設業界	Vol. 48	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 石井樋 —復元された四百年前の取水施設—	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年5月
CE建設業界	Vol. 49	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 児島湾干拓農地 —樋門のフィールド・ミュージアム	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年6月
CE建設業界	Vol. 50	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 長崎中島川のバイパス公園 —空間方程式が変わった—	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年7月
CE建設業界	Vol. 51	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 幌内ダム —北海道遺産の景観—	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年8月
CE建設業界	Vol. 52	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 西天竜幹線水路 円筒分水群 —扇状地の土地利用転換施設—	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年9月
CE建設業界	Vol. 53	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 勝関橋・永代橋・清洲橋 —隅田川三橋梁の重文指定—	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年10月
CE建設業界	Vol. 54	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 勝関橋・永代橋・清洲橋 —隅田川三橋梁の重文指定(その2) —	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年11月
CE建設業界	Vol. 55	pp. 8-10	知られざる『100年』プロジェクト 奥津発電所調整池 —懸崖式水槽—	伊東 孝 西山芳一(写真)	07年12月
ponte	No. 27	pp. 2-3	『勝関橋をあげる会』と勝関橋の重文指定	伊東 孝	07年春夏号
ponte	No. 28	pp. 2-3	愛媛の近代化遺産調査	伊東 孝	07年秋冬号
報告書	小平ユネスコ[玉川上水を世界遺産 に]プロジェクト連続市民講座講演集 小平 ユネスコ協会	pp. 93-106	玉川上水の土木遺産としての価値と保存	伊東 孝	07年3月
報告書	交通工学 Vol. 42 増刊号 自主研 究	pp. 13-16	大規模ニュータウンの交通システムの事後評価と改善方策の提言	中村文彦 岡村敏之 瀬川悟司 福田 敦 轟 朝幸 伊東英幸 樋口浩子 大口 敬 木澤友輔 高見淳史 木瀬晴也 新倉 聡 椎名啓雄	07年10月
報告書	科学研究費補助金実績報告書		わが国における環境補償制度の促進方策に関する研究	伊東英幸	08年3月
報告書	まちみらい千代田 まちづくりサポート報告書		橋を視点として考える千代田の観光まちづくり	伊東 孝 岡田邦男 伊東英幸 大沼史成	08年3月
毎日新聞			企画特集 近代遺産を楽しもう／ヘリテージング100選／美しい近代建築を見る旅 選考委員	伊東 孝	07年1月24日
朝日新聞			港湾と景観一体に価値／架橋計画見直し訴え／「鞆」学習で伊東・日大教授	伊東 孝	07年1月30日
日刊建設工業新聞			ランドマークとなる橋梁も景観まちづくり重要物件に／東京・千代田区 年度内にも指定へ	伊東 孝	07年1月31日
山陽日日新聞			C.W.ニコルさんと陣内秀信教授も 呼び掛け 大林宣彦監督ら8人／「鞆の浦」全国支援の会立ち上げ／16日東京で会見／尾道で応援団結成の動き	伊東 孝	07年3月14日
毎日新聞			鞆の浦の架橋反対 「支援する会」発足／大林監督ら	伊東 孝	07年3月17日
朝日新聞			鞆の浦、未来に残そう／埋め立て・架橋反対へ新組織／大林監督ら 景観保存を訴え	伊東 孝	07年3月17日
中国新聞			ワイド中国 鞆架橋計画 「反対」全国組織が発足／大林監督ら会見 貴重な港町アピール	伊東 孝	07年3月17日
毎日新聞			勝関橋など11件重文 文化審答申 幼稚園舎初指定へ／永久保存に道 「あげる会」歓迎	伊東 孝	07年4月21日
毎日新聞			「錦帯橋単独での挑戦も」 岩国市文化的景観等検討委初会合 世界遺産登録目指し協議	伊東 孝	07年6月17日
日本経済新聞			遠みち近みち 橋を見に行こう	伊東 孝	07年7月29日
日刊建設工業新聞			土木学会 七重川砂防堰堤群など 選奨土木遺産23件を決定	伊東 孝	07年10月22日

まちみらいニュース Vol. 33	ウォークショップ '07 日本橋川から神保町へ まちづくり活動の現場を巡る (財)まちみらい千代田	伊東 孝	07年2月20日
NHK 教育テレビ	「東京を作った男 後藤新平～その思想と戦略～」企画協力	伊東 孝	07年5月20日
TV朝日関東ローカル系	「ちい昭和散歩」	伊東 孝	07年10月10日
Ponte No. 28	「ちい昭和散歩」ロケ・スナップ	加藤 豊 伊東 孝	07年秋冬号

環境工学研究室 (岩井茂雄 教授・宮本 守 助手)

■ Short Note

Special Issue of College of Science and Technology 2006, College of Science and Technology, Nihon University pp. 57-59	Contamination in Roadway Flash-water Influenced by Vehicle Exhaust Gas	Kazuyo Shimizu Shigeo Iwai	07年3月
--	--	-------------------------------	-------

■ 口頭発表

第34回土木学会関東支部技術研究発表会	タイヤ/路面騒音の周波数特性に及ぼすタイヤトレッド溝の影響について	牧迫 大 岩井茂雄	07年3月
第34回土木学会関東支部技術研究発表会	自動車排出ガスの影響による路上雨水の汚染実態について	清水一代 岩井茂雄	07年3月

■ 研究討論会報告

土木学会全国大会 研究討論会資料	舗装技術の啓発活動と舗装技術者への継続教育について	峯岸邦夫 岩井茂雄	07年9月
------------------	---------------------------	-----------	-------

空間情報研究室 (佐田達典 教授)

■ 著書

(社)土木学会情報利用技術委員会 pp. 6-9	土木情報ガイドブック —土木技術者のための情報収集と活用—	佐田達典	07年9月
(社)日本測量協会 pp. 167-169	測量者のためのビジネス情報ファイル 2008年版	佐田達典	07年12月

■ 査読論文

土木情報利用技術論文集 Vol. 16 pp. 27-36	三次元形状計測における大量点群データの処理手法	大津慎一 佐田達典	07年10月
-------------------------------	-------------------------	-----------	--------

■ 口頭発表

第62回土木学会年次学術講演会 CD-ROM	デジタル写真解析によるPCセグメント寸法計測	掛橋孝夫 益子博志 佐田達典	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会 CD-ROM	トンネルなどの閉空間に特化した三次元計測の効率化の検討	村山盛行 塩崎正人 清水哲也 佐田達典	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会 CD-ROM	三次元形状計測における大量点群処理システムの研究開発	大津慎一 佐田達典	07年9月
第51回日本大学理工学部学術講演会 pp. 680-681	3次元レーザースキャナーによる船橋キャンパス内街路・建物形状計測	石塚 隆 米屋貴博 高田恭宏 福森秀晃 江上翔悟 重信兼史 沖田孝介 川口拓哉 佐田達典 江守 央	07年12月

■ その他 (報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

CDIT (助沿岸技術研究センター機関誌) Vol. 22 pp. 3-7	衛星測位と情報化施工	佐田達典	07年6月
測量 Vol. 57 No. 8 pp. 8-9	三角点 (巻頭言) 測量教育が次に目指すもの	佐田達典	07年8月
JACIC情報第87号 Vol. 22 No. 3 pp. 47-51	測位の実務の立場から	佐田達典	07年9月

基礎力学研究室 (下辺 悟 准教授)

■ 口頭発表

第42回地盤工学研究発表会 平成19年度発表講演集 (冊子・CD-ROM版) pp. 285-286 地盤工学会	拡張フォールコン法による土のコンシステンシー特性の評価とその利用	下辺 悟 小林保彦 氏平成俊	07年7月
第42回地盤工学研究発表会 平成19年度発表講演集 (冊子・CD-ROM版) pp. 2085-2086 地盤工学会	多孔質天然素材の浸潤課程とその水質浄化機能	下辺 悟 竹中 聡 水上晃嘉 吉田全克	07年7月
第51回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 (土木系部会) pp. 658-659	多孔質天然素材を用いた水質浄化機能に関する研究	下辺 悟 竹中 聡 小森崇裕 宮川 創	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 (土木系部会) pp. 672-673	ADR法を用いた地盤防災の検知技術に関する研究	下辺 悟 氏平成俊 小川 悟 鈴木貴宏 野見山裕章 武田和士 村岡裕輔	07年12月

交通計画第二研究室（高田邦道 教授・小早川 悟 専任講師）

■著書

物流シンポジウム ―物流マネジメント実現のために、何をなすべきか― 日本交通政策研究会 pp. 84-90	シンポジウムのまとめと将来への課題	苦瀬博仁 高田邦道 高橋洋二	07年3月
道経研シリーズ A-136 (助道路経済研究所 p. 194)	物流施策の交通計画的な視点からの総合評価及び今後のあり方	高田邦道編著 藤井敬宏 五十嵐一智 長谷川大悟 他	07年7月
自動車交通研究 ―環境と政策―2007 日本交通政策研究会 pp. 28-29	二輪車の走行空間に関する研究	高田邦道 小早川 悟	07年11月
日交研シリーズ A-436 日本交通政策研究会 p. 49	二輪車の走行空間に関する研究	高田邦道編著 小早川 悟 他	07年12月
現代用語の基礎知識2008 自由国民社 pp. 747-765	交通運輸用語の解説	高田邦道	08年1月

■査読論文

国土と政策 No. 26 pp. 31-32	交通事故半減へ向けて市民参加を考える ―市川・鎌ヶ谷・白井3市の先進的取り組み	高田邦道	07年3月
国土と政策 No. 26 pp. 33-42	GISを用いた市レベルの交通事故分析手法	南部繁樹 赤松弘和 高田邦道	07年3月
国土と政策 No. 26 pp. 43-48	英国にみる交通需要マネジメント施策の考え方 ―道路利用者課金と勤務地駐車課金―	小早川 悟	07年3月
都市計画266号 Vol. 56 No. 2 pp. 49-54	グリーンロジスティクスを目指した都市交通計画	小早川 悟 高田邦道	07年4月
14th WORLD CONGRESS ON INTELLIGENT TRANSPORT SYSTEMS in Beijing, China, TPO26	Development of Imformation Network System for P&R Promotion	Noriyuki Tsukada・ Kunimichi Takada	07年10月
第27回交通工学研究会発表論文報告集 pp. 229-232	レシートバックシステムによるP & R料金低減化に関する研究	小早川 悟 高田邦道 五十嵐一智 青木優弥	07年10月
国土と政策 No. 27 pp. 15-19	シニア社会の交通政策	高田邦道	08年1月
国土と政策 No. 27 pp. 20-27	交通安全対策支援システムの実用化と専門技術者用教育プログラムの開発	南部繁樹 赤羽弘和 高田邦道	08年1月

■口頭発表

(助)国際交通安全学会 平成18年度研究調査報告会 経団連会館	プレホスピタル・サポートシステムの開発	守谷 俊 南部繁樹 木戸伴雄 高田邦道 他	07年4月20日
土木学会 平成19年度全国大会 (IV-056) 於：広島大東広島キャンパス	道路交通法の改正施行に伴う路上駐車の変化	長谷川大悟 小早川 悟 高田邦道	07年9月
土木学会 第36回土木計画学研究発表会 (秋大会) (38) 於：八戸工業大学	道路交通法の改正施行に伴う路上駐車実態の変化について ―特に、貨物車に注目して―	長谷川大悟 宇多俊雄 小早川 悟 高田邦道	07年11月
第51回日本大学理工学部学術講演会 (F-17) 於：日本大理工学部駿河台校舎	千葉県鎌ヶ谷市東初富地区の交通安全対策における効果	宮代泰貴 葛山順一 (26期 鎌ヶ谷市役所) 高田邦道	07年12月
日本交通政策研究会 平成19年度研究プロジェクト報告会 於：日本交通政策研究会会議室	道路交通法改正による駐車実態の変化	高田邦道 對 木揚 小早川 悟	08年2月

■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）

国土交通省『道路政策の質の向上に資する技術的開発』平成17年度採択課題研究報告書 (社)国土政策研究会 p. 82	市民参加型交通安全対策・評価システムの実用化に関する研究 開発	高田邦道 (研究代表者) 南部繁樹 他	07年3月
報告書 (助)国際交通安全学会 p. 63	市民参加型交通安全対策・評価システムの実用化に関する研究 報告書	赤羽弘和 高田邦道 木戸伴雄 南部繁樹 葛山順一 他	07年3月
報告書 (助)国際交通安全学会 p. 51	プレホスピタル・サポートシステムの開発報告書	守谷 俊 (研究代表者) 高田邦道 木戸伴雄 南部繁樹 葛山順一 他	07年3月
報告書 渋谷区	渋谷駐車場整備地区地域ルール検討調査報告書	高田邦道 (委員長)	07年3月
都市と交通 通巻71号 p. 1	都市・交通施策と物流 (巻頭言)	高田邦道	07年12月

日本大学広報 第568号 p. 3	誰のためのFD (主張)	高田邦道	08年1月
テレビ東京・BSジャパン『ケンちゃんの晩めし前!』	駐車監視員 (コメント)	高田邦道	07年4月2日
テレビ朝日『スーパー Jチャンネル』	歩行者専用のはずが…進入禁止を平気で無視、暴走違反者が次々通過「魔の通学路」ヒヤリ (コメント)	高田邦道	07年5月24日
テレビ朝日『スーパー Jチャンネル』	ナゼダス調査隊～危ない道路～“交通事故半減プロジェクト”「バルブアウト」作戦とは… (コメント)	高田邦道	08年2月7日
国土と政策 No. 27 pp. 4-11	岩井國国会会長就任記念座談会「これからの国土を語る」	岩井國臣 (前参議院議員) 高田邦道 松園俊志 (東洋大教授) 小浪博英 (東京女学館大教授) 佐藤英雄 (社国土政策研究会専務理事)	08年1月
毎日新聞 (西部版朝刊)	福岡・車転落3児死亡:地裁判決全国の交通事故遺族「脇見運転」判決に不満 (コメント)	高田邦道	08年1月9日

運輸交通計画研究室 (轟 朝幸 准教授)

■査読論文

土木学会 土木計画学研究・論文集 Vol. 23 No. 4 pp. 671-676	都市鉄道新線の開業遅延による効果損失の影響分析—東葉高速鉄道を事例として—	轟 朝幸 栗野壽一	07年9月
国土と政策 第27号 pp. 47-55	高知における地域ITSの実践	岡村健志 松本修一 片岡源宗 轟 朝幸 寺部慎太郎 大森宣暁 熊谷靖彦	08年1月
交通学研究 2007年研究年報 pp. 159-168	バス停付近における路上駐停車の外部費用の計測—新浦安駅周辺を対象に—	中村彰宏 松本修一 轟 朝幸	08年3月

■口頭発表

第35回土木学会 土木計画学研究発表会 (春大会)	航空会社によるわが国の国際拠点空港の選択要因分析	荒谷太郎 轟 朝幸	07年6月
第35回土木学会 土木計画学研究発表会 (春大会)	公共交通経路検索ログデータを用いた非定常トリップの分析	大西貴佳 轟 朝幸 松本修一	07年6月
第35回土木学会 土木計画学研究発表会 (春大会)	路面電車の混雑情報提供による利用者行動変化に関する研究	松田博和 轟 朝幸 松本修一 伊藤健史	07年6月
第35回土木学会 土木計画学研究発表会 (春大会)	路上駐車が交通流に与える社会的費用に関する基礎的研究	中村彰宏 松本修一 轟 朝幸	07年6月
第62回土木学会年次学術講演会講演概要集 CD-ROM 4-132	千葉ニュータウンの変容と交通事故発生との関連性に関する実態分析	岡村 誠 福田 敦 轟 朝幸 伊東英幸 石坂哲宏	07年9月
第36回土木学会 土木計画学研究発表会 (秋大会)	交通アンケート調査におけるWebアンケート活用の信頼性について	轟 朝幸 須永貴之	07年11月
第51回日本大学理工学部学術講演会 (都市・交通計画部会)	バス事業におけるマーケティング戦略4Pの実態に関する研究	阿部光治 轟 朝幸	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 (都市・交通計画部会)	公共交通サービスによる都市間交通の効率性分析	荒谷太郎 轟 朝幸	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 (都市・交通計画部会)	駅タクシープールの混雑課金制度に関する研究—JR千葉駅東口を対象として—	鈴木孝幸 轟 朝幸	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 (都市・交通計画部会)	都市鉄道における混雑情報提供による乗車変更行動の分析	松田博和 轟 朝幸	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 (都市・交通計画部会)	鉄道廃線基準明確化による協議会での協議円滑化について	谷澤悠輔 轟 朝幸	07年12月

■その他 (報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

計画・交通研究会会報	Opinion「交通はひとつ」	轟 朝幸	07年1月
テレビ東京『ケンちゃんの晩めし前』	「DMV」(コメント)	轟 朝幸	07年6月
交通工学 Vol. 42 増刊号 自主研究 pp. 13-16	大規模ニュータウンの交通システムの事後評価と改善方策の提言	中村文彦 岡村敏之 瀬川悟司 福田 敦 轟 朝幸 伊東英幸 樋口浩子 大口 敬 木澤友輔 高見淳史 木瀬晴也 新倉 聡 椎名啓雄	07年10月

情報工学研究室 (中山晴幸 専任講師)

■口頭発表

平成19年度工学・工業教育研究講演会 (社)日本工学教育協会	土木製図のCAD教育および橋梁模型製作と載荷実験を通じた 専門科目との連携教育	中山晴幸	07年8月
Proceedings of the 4 th Pacific Asia Conference on Mechanical Engineering	MONITORING AND DETECTION OF DRIVER FATIGUE	Haruyuki Nakayama, Atsu Yano	07年9月
第51回日本大学理工学部学術講演会論文集	パケット通信を用いたリアルタイム運転疲労検知システム	山崎陽司 中山晴幸 矢野 熱 日高拓也	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会論文集	混雑した横断歩道に関する歩行者シミュレーションモデルの構 築	山本泰裕 中山晴幸 石川慎一郎	07年12月

■その他 (報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

テレビ朝日『スーパーJチャンネル』	高速道路の落下物についてコメント	中山晴幸	07年4月4日
テレビ朝日『スーパーJチャンネル』	自転車の衝突についてコメント	中山晴幸	07年6月13日
TBS『みのもんたの朝ズバッ!』	自転車が衝突時危険性についてコメント	中山晴幸	07年7月11日
TBS『噂の東京マガジン』(噂の現場)	ヘッドライトの死角についてコメント	中山晴幸	07年7月15日
NHK『夕方のニュース』	歩行者とドライバーの夜間の視認性の違いについてコメント	中山晴幸	07年10月16日
TBS	ピンポンなど2番組で自転車の安全についてコメント	中山晴幸	08年2月21日
フジテレビ『めざましテレビ』	自転車の安全についてコメント	中山晴幸	08年2月26日
読売テレビ	ニュース「暴走自転車の恐怖」へ電話インタビュー	中山晴幸	08年3月3日

交通システム研究室 (福田 敦 教授・石坂哲宏 助手)

■査読論文

Special Issue of Nihon University CST 2006 Annual Conference-Report of RISTNU- No. 1 pp. 25-28	Study on Transport Development Potentiality under Constraint of CO2 Emissions on Urban Road Transport Network in Developing Country	Otkur Ghojash, Atsushi Fukuda, Yuichiro Kaneko, Tomonobu Inokuchi	07年3月
Special Issue of Nihon University CST 2006 Annual Conference-Report of RISTNU- No. 1 pp. 29-32	Study on the Estimation of the Number of Probe Vehicles Required to Provide Reliable Travel Time Information	Tetsuhiro Ishizaka, Atsushi Fukuda	07年3月
Special Issue of Nihon University CST 2006 Annual Conference-Report of RISTNU- No. 1 pp. 33-34	Study on the Development and Emergency Application of a Multi-Hop Wireless Ad-Hoc Network Using Inter-Vehicle Communications, Based on a Multi-Agent Concept	Toshiaki Muroi, Atsushi Fukuda	07年3月
IATSS RESERCH Vol. 31 No. 1 pp. 32-40	Estimation of CO2 Emissions Reduction Using Alternative Energy	Otkur Ghojash, Atsushi Fukuda, Tuenjai Fukuda	07年5月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies Vol. 7 (2007) pp. 1828-1843	Study on Regulation of Motorcycle Taxi Service in Bangkok	Ryosuke Oshima, Atsushi Fukuda, Tuenjai Fukuda and Thaned Satiennam	07年12月
Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies Vol. 7 (2007) pp. 1326-1337	Maximum Trips Under Environment Constraint	Otkur Ghojash, Atsushi Fukuda, Yuichiro Kaneko and Tomonobu Inokuchi	07年12月
Journal of Lowland Technology International (LTI) Vol. 9 No. 2 pp. 8-14	ASSESSMENT OF ARTIFICIAL ENVIRONMENT FOR REPRODUCTION OF FOREST GREEN TREEFROG ALONG NIKKO-UTSUNOMIYA ROAD USING HABITAT EVALUATION PROCEDURE	Hideyuki ITO, Atsushi FUKUDA	
国際交通安全学会誌 Vol.32 No.4 pp.23-30	ヒヤリ地図づくりを活用したタイにおける交通安全意識向上の 取り組み	福田トウエンチャイ 福田 敦 岡村 誠	07年12月
Special Issue of Nihon University CST 2006 Annual Conference-Report of RISTNU No.2	Study on Development of the Model of Adaptive Cruise Control and Feasibility of Improvement of Traffic Situation	Toshiaki Muroi, Sumio Shimokawa and Atsushi Fukuda	08年3月

■口頭発表

The Transportation Research Board 86 th Annual Meeting	Strategies Enhancing Bus Rapid Transit Development in ASEAN Developing Cities - A Case Study on Bangkok Metropolitan Administration Project-	Thaned Satiennam, Atsushi Fukuda, Ryosuke Oshima	07年1月
--	--	--	-------

The Transportation Research Board 86 th Annual Meeting	Possibility of Promoting Clean Development Mechanism in Transport Sector in Developing Country, Thailand : A Preliminary Stage Perspective	Atsushi Fukuda, Tuenjai Fukuda, Yasuki Shirakawa, Norihisa Maeyama, Shinji Kobayashi, Ryo Masutomo	07年1月
第34回土木学会関東支部技術研究発表会	タイにおけるドライビングシミュレータ活用に関する研究	佐藤朋美 福田 敦 福田トウエンチャイ 岡村 誠	07年3月
第34回土木学会関東支部技術研究発表会	沖縄都市モノレールに対する主観的評価の時間的変化に関する分析	清水駿太 福田 敦 梅原 隼	07年3月
第34回土木学会関東支部技術研究発表会	バス停に隣接している交差点でのバス乗降感応信号制御に関する研究	中村賢治 福田 敦 室井寿明	07年3月
第34回土木学会関東支部技術研究発表会	ばねモデルからの追従モデル提案—追従車両を用いた実験—	藤田 匠 福田 敦 下川澄雄 室井寿明	07年3月
11 th World Conference on Transport Research	Possibility of CDM Projects in Transport Sector in Thailand	Atsushi Fukuda, Tuenjai Fukuda, Yasuki Shirakawa, Norihisa Maeyama, Shinji Kobayashi, Ryo Masutomo	07年6月
11 th World Conference on Transport Research	Maximum Possible Increase in Trip under Constraint of Environmental Sustainability	Otkur Gojash, Atsushi Fukuda, Yuichiro Kaneko, Tomonobu Inokuchi	07年6月
11 th World Conference on Transport Research	Alternative Energy Policy and Bio-Diesel Development in Thailand	Tuenjai Fukuda, Saimai Jai-in, Rangsun Sarochawitkasit	07年6月
11 th World Conference on Transport Research	The Demand Policy for Bus Rapid Transit Development in Southeast Asian Developing Cities - Accumulation of Demands from Urban Sprawls to BRT Corridor by Pratransit Feeder -	Thaned Satiennam, Atsushi Fukuda, Yuichiro Kaneko	07年6月
第35回土木計画学研究発表会（春大会）	プローブ情報システムによる旅行時間推定の信頼性に関する研究	石坂哲宏	07年6月
第35回土木計画学研究発表会（春大会）	マルチエージェントシミュレーションを用いた災害時の車車間通信による情報伝搬モデルの提案	室井寿明 福田 敦	07年6月
第35回土木計画学研究発表会（春大会）	軌道系公共交通機関の新規開業に伴う心理要因の長期的変化とその交通行動への影響に関する研究	梅原 隼 福田 敦 藤井 聡 金城一也	07年6月
Proceedings of International Conference and workshop on Sustainable and Intelligent Transport Systems pp. 219-227	An Impact of Adaptive Cruise Control on Traffic Flow	Atsushi Fukuda, Sumio Shimokawa, Toshiaki Muroi	07年8月
Proceeding of the Eastern Asia Society for Transportation Studies Vol. 7 No. 100404	Study on Circumstantial Analysis of Environment Conservation Projects around Roadside in Japan	Hideyuki ITO, Atsushi FUKUDA	07年9月
Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies Vol. 7	Maximum Trips Under Environment Constraint	Otkur Gojash, Atsushi Fukuda, Yuichiro Kaneko, Tomonobu Inokuchi	07年9月
Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies Vol. 7	OD Pair Sampling Methodology for Probe Vehicle System and Effect of Probe Information	Tetsuhiro Ishizaka, Atsushi Fukuda	07年9月
Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies Vol. 7	Study on Regulation of motorcycle Taxi Service in Bangkok	Ryosuke Oshima, Atsushi Fukuda, Tuenjai Fukuda, Thaned Satiennam	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会講演概要集	走行特性を考慮した車種別プローブカー混入率の算出に関する研究	石坂哲宏 福田 敦 石川博章	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会講演概要集	マイクロ交通シミュレーションを用いたタイ・バンコクにおけるBRT導入計画の評価に関する研究	金子翔一 福田 敦 Thaned Satiennam 大島良輔	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会講演概要集	小型車連続立体交差導入による効果の推計	室井寿明 福田 敦 伊藤 晃	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会講演概要集	千葉ニュータウンの変容と交通事故発生との関連性に関する実態分析	岡村 誠 福田 敦 轟 朝幸 伊東英幸 石坂哲宏	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会講演概要集	米国カルフォルニア州のミチゲーションバンキングに関する実態調査 —サンタローザ市のバンクサイトを対象として—	伊東英幸 横内憲久 岡田智秀 福田 敦	07年9月

環境アセスメント学会 2007年度研究発表会	米国カリフォルニア州のミチゲーションバンキングに関する実態調査 —カリフォルニア州の事例を対象として—	伊東英幸 横内憲久 岡田智秀 福田 敦	07年9月
14 th International Conference Road Safety on Four Continents	Thailand Road Safety and Introducing Public Participatory Approach for Black Spot Identification	Tuenjai Fukuda, Atsushi Fukuda, Chamroom Tangpaisalkit, Tusanee Sinlapabutra	07年11月
4 th Asian Regional Conference on Safe Communities	Cutting-edge Technology for Safer Communities	Atsushi Fukuda, Tetsuhiro Ishizaka Tuenjai Fukuda	07年11月
第51回日本大学理工学部学術講演会 (都市交通計画部会)	タイ国ウドンタニ市における運転者からの路面標示などの視認性に関する調査 ～コンケン大学との共同ワークショップを通じて～	寺館直樹 荒木直哉 池下英典 福田 敦 石坂哲宏 岡村 誠 谷 亮太 福田トウエンチャイ	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 (都市交通計画部会)	タイ国チェンマイ市におけるチェンマイ大学との共同ワークショップの開催 ～チェンマイ市の交通問題の現状～	鈴木元太 海保絢子 木村佐和子 芳賀脩平 鈴木正樹 福田 敦 石坂哲宏 岡村 誠 福田トウエンチャイ	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 (総合科学部会)	日本大学豊山女子高等学校における「ネットテスト」利用事例	石坂哲宏 大野好二 葉島千歌 福田 敦 谷岡 朗 多恵基継 鈴木 孝 中川 浩 郭 海燕 周 一川 谷 亮太 Falout Joseph	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 (総合科学部会)	e-learningの現状と課題 —「夏コン」を中心に—	多恵基継 谷岡 朗 鈴木 孝 葉島千歌 Joseph Falout 中川 浩 郭 海燕 周 一川 石川光一 福田 敦 石坂哲宏	07年12月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	開発途上国における混合交通下のオートバイ走行モデルの構築	石田祐介 福田 敦 石坂哲宏	08年3月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	高速道路における追従走行データに基づく追従挙動の解析	大野武男 福田 敦 下川澄雄 室井寿明	08年3月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	タイ・コンケン市における沿道大気汚染物質排出量制限下での最大トリップ数に関する研究	川上貴章 福田 敦 ウティクル ゴジャシ	08年3月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	タイ・バンコクにおけるBRT南線導入の影響に関する研究	鈴木正樹 福田 敦 石坂哲宏 金子翔一	08年3月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	トリップベースで算出されたプローブカー必要混入率から実台数への換算に関する基礎的研究	高橋潤一郎 石坂哲宏 福田 敦	08年3月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	確率的フロンティアモデルを用いたタイ・バンコクにおけるパラトランジットの経営効率性に関する研究	谷 亮太 福田 敦 石坂哲宏	08年3月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	タイにおける交通危険状況認識のための二輪車ドライビングシミュレータ用VR空間の作成に関する研究	平野正偉 福田 敦 岡村 誠	08年3月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会	混雑交差点並びに混雑路線を対象とした緊急車両通行方式のあり方と信号制御方式に関する研究	萬井健太 福田 敦 石坂哲宏	08年3月
第2回JACET英語辞書研究会 英語語彙研究会合同研究大会	日本大学豊山女子高校における基本語彙学習サイト・「ネットテスト」(基本語彙3000)の利用と学習効果	葉島千歌 大野好二 福田 敦 石坂哲宏	08年3月
■その他(報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)			
(財)国際交通安全学会	報告書：交通安全教育の手法と評価法の研究「シミュレーターを活用した交通安全教育の検討」	福田 敦	07年3月
(財)国際交通安全学会	報告書：「エコロジカルな都市幹線交通システムの開発途上国での普及戦略の実証的研究」	福田 敦 大島良輔 福田トウエンチャイ	07年3月
(財)国際交通安全学会	資料集：「タイにおける交通安全施策推進のための支援方策の検討」	福田 敦 岡村 誠 福田トウエンチャイ	07年3月
週刊東洋経済 2007年8月11・18日合併特大号 東洋経済新報社	JABEE広告特集「日本大学理工学部【社会交通工学科】」	福田 敦	07年8月
交通工学 Vol. 42 増刊号 自主研究 pp. 13-16	大規模ニュータウンの交通システムの事後評価と改善方策の提言	中村文彦 岡村敏之 瀬川悟司 福田 敦 轟 朝幸 伊東英幸 樋口浩子 大口 敬 木澤友輔 高見淳史 木瀬晴也 新倉 聡 椎名啓雄	07年10月

国土交通政策研究所報 26号 2007年秋季	交通分野におけるCDM事業の現状と今後の方向性	福田 敦	07年11月
交通工学 第42巻 6号 交通工学研究会	交通分野におけるCDMプロジェクトの現状と課題	福田 敦	07年11月
交通工学 第42巻 6号 交通工学研究会	用語と解説『CDM (クリーン開発メカニズム)』	福田 敦	07年11月
交通工学 第42巻 6号 交通工学研究会	研究室紹介『日本大学理工学部社会交通工学科 交通システム研究室』	室井寿明 岡村 誠 金子翔一	07年11月
JABEE NEWS 第7号	社会交通工学科教育プログラム	福田 敦	07年11月

交通環境研究室 (藤井敬宏 教授)

■著書

財道路経済研究所編 (分担執筆) A-136	物流政策の交通計画的な視点からの総合評価及び今後のあり方 3-1 物流政策目標と施策内容の設定問題 4-4 NOx・PM法による影響、都市部の排出ガス規制の考察	藤井敬宏	07年3月
------------------------	--	------	-------

■口頭発表

平成18年度学術フロンティア推進事業 環境・防災都市に関する研究 研究報告書 第8号	NOx・PM法およびディーゼル車走行規制の効果と影響	藤井敬宏	07年6月
日本工業教育講演会	静岡県下田市における社会貢献型演習の取り組み —都市計画 マスタープランにおける交通改善計画の提案—	藤井敬宏 小早川悟 高田邦道 木戸伴雄 内田 滋	07年8月
第62回土木学会年次学術講演会論文集 pp. 335-336	トラック事業者の環境負荷軽減対策に関する研究 —NOx・ PM法およびディーゼル車走行規制の影響について—	藤井敬宏 岡部 順 景山あずさ 佐藤壮典	07年9月

■ポスターセッション

平成18年度学術フロンティア推進事業発表会	プロジェクトII-5 「大都市の環境性能と交通制御に関する研 究」 NOx・PM法およびディーゼル車走行規制の効果と影響	藤井敬宏 小嶋勝衛 関口克明 早川 真 宇於崎勝也	07年6月
平成18年度学術フロンティア推進事業発表会	プロジェクトII-5 「大都市の環境性能と交通制御に関する研 究」 環境制御に関わる都市計画制度の影響	宇於崎勝也 小嶋勝衛 関口克明 早川 真 藤井敬宏	07年6月

地盤工学研究室 (巻内勝彦 教授・峯岸邦夫 助手)

■査読論文

建設図書 舗装 2007年 6月号 pp. 18-21	敷砂下のジオテキスタイルの耐久性評価について	巻内勝彦 峯岸邦夫 柳沼宏始 (OB) 杉田由喜夫	07年6月
-----------------------------	------------------------	---------------------------------	-------

■口頭発表

第34回土木学会関東支部技術研究発表会講演 概要集	斜面緑化工法における短繊維混合補強土の一軸圧縮特性	峯岸邦夫 巻内勝彦 他3名	07年3月
(社)地盤工学会 第42回地盤工学研究発表会講 演集	斜面緑化工法における短繊維混合補強土のせん断特性	峯岸邦夫 巻内勝彦 他2名	07年7月
(社)地盤工学会 第42回地盤工学研究発表会講 演集	発泡ビーズ混入軽量化地盤材料の力学特性に及ぼす初期条件の 影響	山中光一 巻内勝彦 峯岸邦夫	07年7月
第62回土木学会年次学術講演会 講演集	火山灰質粘性土の物理的指標試験計測値の統計的性質	海老名 翔 巻内勝彦 峯岸邦夫	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会 講演集	発泡廃ガラス混合軽量化土の力学的特性	巻内勝彦 峯岸邦夫 山中光一	07年9月
第4回地盤工学会関東支部発表講演集 (Geo-Kanto 2007)	軽量盛土材発泡ウレタンの変形特性に及ぼす荷重速度の影響	山中光一 巻内勝彦 峯岸邦夫	07年10月
第51回日本大学理工学部学術講演会	発泡ビーズ混入軽量化土の力学的特性	折原靖明 巻内勝彦 峯岸邦夫 山中光一	07年11月
第51回日本大学理工学部学術講演会	高含水比火山灰質粘性土の物理的指標試験計測値の統計的性質	延島啓仁 巻内勝彦 峯岸邦夫 海老名 翔	07年11月

■その他 (報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

テレビ朝日系『タモリ倶楽部』	今地盤が熱い！ 学生対抗ソイルタワーコンテスト	山中光一 海老名 翔 佐藤 剛	07年8月
----------------	-------------------------	--------------------	-------

構造工学第二研究室 (柳沼善明 教授・斉藤準平 助手)

■査読論文

Report of the Research Institute of Science and Technology, Nihon University Short Note No. 1 College of Science and Technology Nihon University pp. 53-56	Nonlinear Finite-Element Analysis of Reinforced Concrete Beam using Super-Lightweight Concrete	Noriyoshi Fujisaki, Junpei Saito and Yoshiaki Yaginuma	07年3月
日本大学理工学研究所報 115号 pp. 11-26	超軽量コンクリートを用いた外ケーブル方式T形はりのせん断挙動とその非線形FEM解析	柳沼善明 井口 淳	07年3月
第16回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集 プレストレストコンクリート技術協会 pp. 147-152	超軽量コンクリートを用いた外ケーブル方式T形はりのせん断挙動とFEM解析	井口 淳 柳沼善明	07年10月

■口頭発表

第34回土木学会関東支部技術研究発表会 講演概要集 (CD-R)	洪水による鉄道橋コンクリート橋脚の倒壊に関する一考察	斉藤準平 石野和男 柳沼善明	07年3月
第51回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 (土木系部会) pp. 630-631	ビニロン繊維を用いたモルタルの流動性と強度	武岡智紀 柳沼善明	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 (土木系部会) pp. 632-633	RCはりの非線形有限要素解析に及ぼす要素寸法の影響	首藤和貴 柳沼善明	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 (土木系部会) pp. 634-635	超軽量コンクリートを用いたRCはりのせん断耐力	五位野敏男 櫻井琢磨 柳沼善明	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 (土木系部会) pp. 636-637	人工ゼオライトを用いたモルタルの流動性と圧縮強度	糸賀美雪 小菅 恵 近藤奈穂 志村美沙 柳沼善明	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会 講演論文集 (土木系部会) pp. 664-665	洪水による鉄道橋コンクリート橋脚の倒壊危険度評価に関する一考察	斉藤準平 石野和男 柳沼善明	07年12月
第50回日本大学工学部学術研究報告会 講演要旨集(土木工学部会) pp. 38-39	外ケーブル工法箱桁橋における定着部の破壊実験	井口 淳 武岡智紀 柳沼善明	07年12月
第50回日本大学工学部学術研究報告会 講演要旨集(土木工学部会) pp. 40-41	RCはりにおける非線形FEMの感度解析	柳沼善明 首藤和貴 井口 淳	07年12月
第35回土木学会関東支部技術研究発表会 講演概要集 (CD-R)	洪水による鉄道橋コンクリート橋脚の倒壊危険度の評価方法に関する一考察	斉藤準平 石野和男 柳沼善明	08年3月

道路交通研究室 (安井一彦 准教授)

■査読論文

第27回交通工学研究発表会論文集 pp. 41-44	T型交差点における飽和交通流率に関する研究	加藤 翼 森田緯之 安井一彦	07年10月
----------------------------	-----------------------	-------------------	--------

■口頭発表

第51回日本大学理工学部学術講演会	首都高速道路の実勢速度における幾何構造からの影響要因に関する研究	加藤 翼 森田緯之 安井一彦	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会	踏切での車両挙動と制御方法に関する研究	瓜生昌彦 安井一彦	07年12月

■その他 (報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等)

JAF メイト社	特集事故ファイル「なかには危ない時差式信号機も」	安井一彦	07年12月1日
----------	--------------------------	------	----------

水環境システム研究室 (吉川勝秀 教授)

■著書

学芸出版社	多自然型川づくりを越えて	吉川勝秀編著	07年4月
山海堂	河川堤防学	吉川勝秀編著	07年11月
鹿島出版会	舟運都市	吉川勝秀 他編著	08年2月
鹿島出版会	流域都市論	吉川勝秀	08年3月

■査読論文

不知火・球磨川流域圏学会誌 原著論文 vol.1 No.1 pp. 61-69	流域圏構想の新たな展開	吉川勝秀	07年3月
河川技術論文集 vol. 13 pp. 19-22	印旛沼流域における水循環特性に関する一考察	渡辺眞道 大関裕次郎 古川巖水 吉川勝秀	07年6月

河川技術論文集 vol. 13 pp. 35-40	インド国ガンジス河汚染対策流域管理計画調査	佐藤弘孝 吉川勝秀	07年6月
河川技術論文集 vol. 13 pp. 267-272	日本橋川の空間再生と水環境改善	伊藤一正 末松央行 木村美瑛子 小林恭介 吉川勝秀	07年6月
河川技術論文集 vol. 13 pp. 309-314	低湿地堤防の弱点箇所と安全性に関する考察	瀬川明久 港高 学 吉川勝秀	07年6月
学術の動向 (日本学術会議) pp. 30-33	水循環と自然共生 —自然と共生する流域圏・都市再生—	吉川勝秀	07年7月
安全工学シンポジウム論文集 pp. 277-280	河川堤防の安全管理のための実証的研究	福成孝三 白井勝二 田中長光 吉川勝秀	07年7月
The Environmental Engineering Association of Thailand EEAT Yearbook and Directory 2007 pp. 59-74	Post-Evaluative Study of Flood Mitigation in the Basin of Gently Flowing Rivers on Low-Lying Plains	Katsuhide Yoshiakwa Yoshiki Motonaga Ksamsan Suwarnarat Teeradej Tangprutgul Chanchai Vitoonpanyakij Suwit Thanopanuwat	07年
土木学会 第15回地球環境シンポジウム論文集 pp. 213-218	自然と共生する流域圏・都市再生シナリオに関する考察	福成孝三 吉川勝秀	07年8月
日本都市計画学会 都市計画論文集 vol. 42-2 pp. 62-71	都市化が急激に進む低平地緩流河川流域における治水に関する都市計画論的研究	吉川勝秀	07年10月
安全問題研究論文集 2007年度 vol. 2 pp. 119-124	樋門周辺堤防の変状に関する実証的考察	瀬川明久 港高 学 吉川勝秀	07年11月
安全問題研究論文集 2007年度 vol. 2 pp. 125-130	河川堤防システムの量的・質的な安全管理	福成孝三 白井勝二 田中長光 吉川勝秀	07年11月
建設マネジメント研究論文集 vol. 14 pp. 1-11	川からの都市再生に関する考察	吉川勝秀	07年11月
建設マネジメント研究論文集 vol. 14 pp. 311-320	河川堤防システムの安全管理に関する実証的研究	福成孝三 白井勝二 吉川勝秀	07年11月
建設マネジメント研究論文集 vol. 14 pp. 361-370	東京湾 (千葉県側) のパブリックアクセスの現状と整備の方向性	岡本幸久 齋野玲子 石塚 香 古川巖水 吉川勝秀	07年11月
■口頭発表			
第34回土木学会関東支部研究発表会	印旛沼・流域の再生に関する考察 —印旛沼流域のモデリングと改善の検討	大関裕次郎 吉川勝秀	07年3月
第34回土木学会関東支部研究発表会	親水空間から考える東京湾再生	崎山 崇 吉川勝秀	07年3月
第34回土木学会関東支部研究発表会	日本橋川水循環に関する研究	末松央行 吉川勝秀	07年3月
第34回土木学会関東支部研究発表会	川から都市再生に関する研究	岡本翔悟 吉川勝秀	07年3月
第34回土木学会関東支部研究発表会	航空写真を用いた河道の変化の考察	桂川晃一 吉川勝秀	07年3月
第34回土木学会関東支部研究発表会	河川からの空間再生に関する研究 —日本橋川を例として—	木村美瑛子 小林恭介 吉川勝秀	07年3月
第34回土木学会関東支部研究発表会	航空写真を用いた河川内樹林化と治水上の問題に関する考察	伊藤 学 吉川勝秀	07年3月
第34回土木学会関東支部研究発表会	日常に根ざした防災船着場の利用についての考察	寺門晃弘 吉川勝秀	07年3月
第34回土木学会関東支部研究発表会	東京湾の親水性再生に関する考察 —企業用地の自然への再生—	川村泰宜 吉川勝秀	07年3月
第34回土木学会関東支部研究発表会	観光舟運を利用した都市再生に関する考察	五内川 譲 吉川勝秀	07年3月
第34回土木学会関東支部研究発表会	港湾区域の海岸利用：主に釣りという視点から	門間敬一 吉川勝秀	07年3月
京都大学防災研究所 研究発表講演会	自然と共生する流域圏・都市再生に関する研究	吉川勝秀	07年3月
第35回土木計画学研究発表会 (春大会) 講演集 CD-R論文集	東京湾のパブリックアクセスの現状	岡本幸久 齋野玲子 石塚 香 吉川勝秀	07年6月
第35回土木計画学研究発表会 (春大会) 講演集 CD-R論文集	水の回廊機能を活用する北総地域の都市再生の考察	伊藤照夫 古川巖水 吉田正彦 吉川勝秀	07年6月
第62回土木学会年次学術講演会概要集II pp. 99-100	印旛沼再生に関する一考察 —印旛沼流域の変遷による問題と対策について—	大関祐次郎 吉田正彦 渡辺眞道 吉川勝秀	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会概要集II pp. 511-512	千葉港のパブリックアクセスの現状と今後の展望	岡本幸久 齋野玲子 吉川勝秀 崎山 崇	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会概要集IV pp. 191-192	観光舟運を利用した都市再生に関する考察	江上和也 吉川勝秀 大関祐次郎 五内川 譲	07年9月
第62回土木学会年次学術講演会概要集IV pp. 193-194	日本橋川の空間再生と水環境改善対策	木村美瑛子 小林恭介 末松央行 宮本 守 吉川勝秀	07年9月

第62回土木学会年次学術講演会概要集Ⅳ pp. 291-292	日常に根ざした防災船着場の利用の可能性	寺門晃弘 吉川勝秀	07年9月
第51回日本大学理工学部学術講演会	印旛沼・流域の都市化に伴う水質悪化要因の分析とその改善に関する研究	大関祐次郎 宮本 守 吉川勝秀	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会	東京湾沿岸千葉県側における水と緑の空間形成のための特性分析	神谷枝里 吉川勝秀 宮本 守	07年12月
第51回日本大学理工学部学術講演会	都市河川でのリバーウォークの設置に関する水理的検討	伊藤 学 吉川勝秀 宮本 守	07年12月
第35回土木学会関東支部研究発表会	利根川からの導水を利用した印旛沼の水質改善効果に関する研究	大関祐次郎 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	東京湾岸域の千葉県側における水と緑の空間形成のための特性分析	神谷枝里 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	流域スケールにおける水と緑の連続性に関する考察	桂川晃一 神谷枝里 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	東京都心部における河川の変遷と川からの都市再生に関する研究	木村美瑛子 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	都市における舟運の歴史的変遷と今日的活用について	寺門晃弘 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	首都圏を流れる荒川、江戸川、花見川の利用実態と改善策に関する研究	小林恭介 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	都市河川におけるリバーウォークの設置に関する水理的検討	伊藤 学 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	利根運河の健康・福祉面での利用性向上について	遠藤雅美 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	都市河川空間の開放に関する考察 —典型的な都市河川である渋谷川・古川を事例に—	五十嵐 優 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	東京湾千葉県側埋立地の緑地からの水と緑のネットワーク形成	真下嗣基 神谷枝里 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	東京湾千葉県側の河川の水理生態特性に関する研究	大瀧裕貴 日野洋一 神谷枝里 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	埋立が進んだ河川の下流部における水理・地形的検討	橋崎真也 神谷枝里 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	利根川水系におけるサケの放流と回帰の実態について	濱本宣明 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
第35回土木学会関東支部研究発表会	江東内部河川の水位低下対策の水辺空間の利用性向上に関する研究	齋藤幸介 宮本 守 吉川勝秀	08年3月
■その他（報告書、作品、執筆、テレビ出演、新聞記事等）			
河川文化 第41号 日本河川協会	川の癒しに関する全国的な話題などについて	吉川勝秀	08年3月
河川レビュー 2008年春号 第141号 新公論社	流域連携 —四半世紀の歩み—	吉川勝秀	08年春

社会的活動

■ 天野光一 教授

富士市 都市景観審議会 会長

富士宮市 都市景観審議会 会長

静岡県 都市景観審査委員会 委員

(社)土木学会 景観・デザイン委員会デザイン賞選考小委員会
委員長

(社)土木学会 土木史研究委員会 幹事長

静岡県 公共サインマニュアル策定委員会 委員長

■ 伊澤 岬 教授

八千代市 福祉有償輸送運営協議会 会長

鎌ヶ谷市 福祉有償輸送運営協議会 会長

印西市 木下貝層・活用検討委員会 委員

船橋市 京成本線高架下利用検討協議会 委員

文京区 コミュニティー道路整備検討委員会 委員長

東京都 観光まちづくり アドバイザー

国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会
委員

国土交通省 道路空間のユニバーサルデザインを考える懇談会
WG 委員

学生設計優秀作品展委員会 委員

日本福祉のまちづくり学会 理事

日本福祉のまちづくり学会 観光ユニバーサルデザイン特別委員会 委員長

(社)交通工学研究会 歩行環境ユニバーサルデザイン自主研究グループ 委員

■ 伊東 孝 教授

文部科学省 文化庁文化審議会 専門委員

東京都 文化財保護審議会 専門委員

埼玉県 文化財保護審議会 専門委員

富山県 文化財保護審議会 専門委員

富山県 立山・黒部の文化資産にかかる有識者懇談会 委員

岩国市 岩国城下町エリアの文化的景観等検討委員会 委員

本庄市 登録文化財評価委員

志木市 登録文化財評価委員

千代田区 景観まちづくり審議会 委員

千代田区 景観まちづくり重要物件(橋梁)選定検討会 委員長

(社)土木学会 選奨土木遺産選考委員会 委員長

(社)土木学会 吉野川第十堰技術評価特別委員会景観・土木史的評価 班長

(財)江戸東京博物館 運営委員会企画展示専門部会 委員

川崎市 市民ミュージアム・アドバイザー

全国町並み保存連盟 常任理事

産業考古学会 理事

(社)日本ナショナル・トラスト 評議員

勝鬨橋をあげる会 代表

鞆まちづくり工房(NPO) 顧問

公益信託大成建設自然・歴史環境基金 運営委員

公立大学法人首都大学東京教員選考委員会委員「建造文化ツーリズム研究」分野 外部委員

■ 岩井茂雄 教授

国土交通省 関東地方整備局平成19年度建設技術展示館審査委員会 委員

国土交通省 関東技術事務所総合評価審査分科会 委員

防衛省 横浜防衛施設局入札監視委員会 委員

防衛省 南関東防衛局入札監視委員会 委員

(独)大学評価・学位授与機構 工学・芸術工学専門委員会 委員

(財)道路保全技術センター 横浜市における舗装のアセットマネジメントシステム検討委員会 委員

(財)機械システム振興協会 鋼床版アスファルト舗装撤去機械システム分科会 委員長

(社)土木学会 出版委員会 委員兼幹事

(社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 委員

(社)土木学会 教育企画・人材育成委員会・生涯学習小委員会 委員長

(社)土木学会 舗装工学委員会 委員

(社)土木学会 舗装工学委員会・舗装工学論文編集小委員会 委員長

(社)インターロッキングブロック舗装技術協会 監事

(社)日本石灰協会 石灰安定処理委員会 委員

■ 佐田達典 教授

(社)土木学会 情報利用技術委員会 幹事長

(社)日本写真測量学会 評議員

(社)日本測量協会 評議員

(社)日本測量協会 月刊測量 編集委員

(社)日本測量協会 刊行委員

(社)日本測量協会 全国測量技術大会 実行委員

(社)電気学会 測位・空間情報応用システム協同研究委員会 委員

■ 高田邦道 教授

千葉県東葛飾 鎌ヶ谷大仏交差点住民検討会 委員長

白井市 都市計画審議会 会長

(社)土木学会技術推進機構 技術者資格委員会・上級技術者資格小委員会 委員

(社)土木学会技術推進機構 技術者資格委員会・特別上級技術者資格小委員会 委員

市川市 交通対策審議会 委員

市川市 交通対策審議会・総合交通計画専門部会 部会長

(社)国土政策研究会 理事

(財)日本交通管理技術協会 理事

国土交通省関東運輸局 関東地方交通審議会 専門委員

千代田区 駐車場整備計画検討委員会 会長

(財)千葉県まちづくり公社 君津市駐車場整備計画策定調査委員会 委員長

(社)環境情報科学センター 環境情報科学論文集17 査読委員

(社)国土政策研究会 PFI研究会 委員

千葉県 大気環境保全対策専門委員会 委員

(財)国際交通安全学会 顧問

(社)国政策研究会 都市・農山漁村研究会 副座長

(社)日本都市計画学会 評議員

東京都環境局 交通需要マネジメント検討会議 委員

(社)日本駐車場工学研究会 理事

鎌ヶ谷市 交通事故半減プロジェクト推進協議会 会長

(財)道路経済研究所 道路交通施策に整合的な物流システムに関する研究 委員長

日本ロジスティックスシステム学会 評議員

日本交通政策研究会 道路交通法改正による駐車実態の変化 主査

(財)駐車場整備推進機構 待機駐車問題研究会 座長

■ 福田 敦 教授

日本技術者教育認定機構 基準委員会 委員

(社)土木学会 技術推進機構 技術者教育プログラム審査委員会 幹事

(社)土木学会 関東支部 幹事長

(社)土木学会 関東支部 商議員

(社)土木学会 会長特別提言委員会アジアへの貢献部会 委員

(社)土木学会 役員候補選考委員会・同素案作成部会 委員

(社)土木学会 技術功労賞選考委員会 委員

(社)土木学会 論文賞選考委員会 委員
(社)土木学会 土木計画のための態度・行動変容研究小委員会 委員
(社)交通工学研究会 研究委員会 委員
(社)交通工学研究会 研究委員会 受託研究小委員会 委員長
(財)国際交通安全学会 国際委員会 委員
(財)国際交通安全学会 IATSSフォーラムプログラム委員会 委員
計画・交通研究会 幹事
日本橋学生工房 アドバイザー
アジア交通学会 (EASTS-Japan) 理事
アジア交通学会 国際学術委員会 委員
ATRANS 理事
チェコ共和国運輸省 International Editorial Board for Transactions on Transportation Sciences 委員
スウェーデン国立道路交通研究所 (VTI) International Organizing Committee for Road Safety on Four Continent (RS4C) 委員
スウェーデン国立道路交通研究所 (VTI) International Scientific Committee for Road Safety on Four Continent (RS4C) 委員
International Organizing Committee for 4th Asian Regional Conference on Safety Communities 委員
International Scientific Committee for 4th Asian Regional Conference on Safety Communities 委員
コンケン大学 Sustainable Infrastructure Research and Development Centre (SIRDC) アドバイザー
国土交通省 交通分野における地球環境・エネルギーに係る国際的な取組に関する有識者検討会 委員
(財)運輸政策研究機構・国際問題研究所 途上国道路輸送CO₂排出抑制政策に関する研究会 委員
(財)海外運輸協力協会 アドバイザー
交通エコロジー・モビリティ財団 交通カーボンオフセット研究会 (国土交通省委託) 委員
(財)日本品質保証機構 CDM/JI判定委員会 海外専門判定委員
(財)高速道路技術センター 平成19年度首都圏における経路選択情報提供検討委員会 (東日本高速道路株、中日本高速道路株委託) 委員
(財)高速道路技術センター 平成19年度横浜支社管内経路選択情報提供検討委員会 (東日本高速道路株、中日本高速道路株委託) 委員
八千代市 都市計画審議会 委員
那覇市 トランジットマイル実行委員会幹事会 副幹事長

■ 藤井敬宏 教授

千葉県船橋市 都市計画審議会 委員
千葉県我孫子市 移動等円滑化基本構想策定協議会 会長
東京都港区 重点整備地区バリアフリー基本構想策定協議会 (赤坂地区) 会長
東京都港区 重点整備地区バリアフリー基本構想策定協議会 (港区芝地区) 会長
千葉県千葉市 バリアフリー基本構想検討協議会 会長

千葉県流山市 流山市・柏市省エネルギービジョン策定委員会 委員長
千葉県柏市 地域公共交通会議 会長
千葉県柏市 沼南地区乗合タクシー運行事業者提案評価会議 委員
千葉県習志野市 福祉有償運送運営協議会 会長
千葉県鎌ヶ谷市 鎌ヶ谷市都市計画道路網策定検討委員会 会長
東京電力 アイドリング防止給電システム研究会 副委員長
東京都武蔵村山市 市内循環バス検討協議会 会長
静岡県静岡市 都市計画道路の見直し アドバイザー
三重大学生物資源学部共生環境学科 非常勤講師 (道路工学担当)
嘉悦大学経営経済学部経営経済学科 非常勤講師 (コミュニケーション論担当)

■ 巻内勝彦 教授

経済産業省 日本工業標準調査会 (JIS) 土木技術専門委員会 委員
(社)地盤工学会 ISO国内対応委員会 委員

■ 柳沼善明 教授

(社)土木学会 材料劣化が生じたコンクリート構造物の構造性能研究小委員会 委員

■ 吉川勝秀 教授

慶応大学大学院 教授 (政策・メディア研究科)
京都大学 客員教授 (防災研究所)
中央大学大学院理工学研究科 非常勤講師
東京工業大学工学部 非常勤講師
日本学術会議 特任連携会員
水文・水資源学会監事
環境省 国立環境研究所 地球環境研究総合推進費S-4研究 (温暖化の危険な水準及び温室効果ガス安定化レベル検討のための温暖化影響の総合的評価に関する研究) アドバイザーリーボード
水辺環境に関する国際情報ネットワーク検討委員会委員 (リバーフロント整備センター)
千代田区外堀保全検討委員会委員 (世田谷区)
NPO法人 川での福祉・医療・教育研究所 理事長

■ 下辺 悟 准教授

人事院 平成20年度 国家公務員採用Ⅱ種試験 (土木) 試験専門委員
地盤工学会 室内試験規格・基準委員会 委員 (WG1物理特性)
地盤工学会 地盤材料試験の方法と解説 (仮題) 執筆担当者

■ 轟 朝幸 准教授

(社)土木学会 技術推進機構 実践的ITS研究委員会研究開発研究員
(社)土木学会 技術推進機構 技術者資格委員会分野別小委員会 委員
(社)土木学会 土木計画学研究委員会国際交流ネットワーク戦略研究小委員会 委員

(社)交通工学研究会 新規出版企画小委員会 委員
(社)国土政策研究会 会誌編集委員会 委員
計画・交通研究会 事務局次長
国土交通省 航空局 入札監視委員会 委員
国土交通省 東京航空局 入札監視委員会 委員
国土交通省 東京航空局 百里飛行場旅客ターミナルビル営業
予定者選定審査会 委員
国土交通省 四国地方整備局 新四国創造研究会WG 委員
東京都 入札監視委員会 委員
葛飾区 契約制度見直し検討委員会 委員
千葉県 「ふさのくに県土整備プラン」策定に関する有識者会
議 委員
千葉県 国土利用計画地方審議会 委員
千葉市 総合交通ビジョン検討委員会 委員
横浜市 生活交通バス路線運行事業者選定委員会 委員
(株)三菱総合研究所(国土交通省航空局委託) 航空需要予測手
法改善検討会 委員
(財)運輸政策研究機構(内閣府沖縄総合事務局委託) 那覇空港
調査技術WG 委員
(株)企画開発(国土交通省関東運輸局委託) 災害時における安
全・安心を確保するためのタクシーの新たな活用にむけた
検討委員会 委員兼技術検討WG座長
日本橋学生工房 アドバイザー

■ 安井一彦 准教授

千葉県警察本部 U T M S 推進協議会 幹事長
千葉県警察本部 交通事故調査委員会 委員
千葉県 大規模店舗立地審議会 委員
警察庁委託 交通安全施設の効果に関する調査研究委員会 委
員
(財)日本交通管理技術協会 トラックドライバーの事故防止に向
けた適切な情報伝達方法に関する調査研究委員会 委員
(社)新交通管理システム協会 交通信号の高度化WG 委員
(社)新交通管理システム協会 歩行者優先信号制御の高度化WG
委員
(社)交通工学研究会 交通工学査読委員会 委員
(社)交通工学研究会 雑誌交通工学編集委員会 委員
(社)交通工学研究会 交通工学ハンドブック改定委員会 委員
(社)交通工学研究会 交通工学研究発表会 査読委員
(社)交通工学研究会 首都高速道路における交通安全対策委員会
委員

■ 小早川 悟 専任講師

(社)土木学会 土木計画学研究委員会 幹事
(社)土木学会 土木計画学研究学術小委員会 委員
(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計編集小委員会 幹事
(社)交通工学研究会 平面交差の計画と設計計算ソフト小委員会
委員長
(社)日本都市計画学会 情報委員会 委員
日本交通政策研究会 道路交通法改正による駐車実態の変化
幹事兼委員

(財)駐車場整備推進機構 待機駐車問題研究会 WG長兼委員
(財)道路経済研究所 道路交通施策に統合的な物流システムに関
する研究 委員

■ 石坂哲宏 助手

(社)土木学会 関東支部 幹事

■ 伊東英幸 助手

環境アセスメント学会 学術委員会 委員

■ 江守 央 助手

UR ちはら台地区コミュニティバス検討協議会 委員
小金井市 交通等バリアフリー基本構想策定協議会 副会長
(社)土木学会 土木計画学研究委員会福祉の交通・地域計画研究
小委員会 委員
文京区 コミュニティー道路整備検討委員会 委員
(社)交通工学研究会 歩行環境ユニバーサルデザイン自主研究グ
ループ 委員
JICE 自主研究「市街地における面的バリアフリー状況の評
価手法の開発」検討会 メンバー
日本福祉のまちづくり学会 第10回実行委員会 委員
松戸バリアフリー市民会議 編集委員

■ 峯岸邦夫 助手

(社)土木学会 技術功労賞選考委員会 幹事
(社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 生涯学習小委員会
委員(～平成19年5月)
(社)土木学会 教育企画・人材育成委員会 生涯学習小委員会
幹事(平成19年6月～)
(社)地盤工学会 事業部出版企画委員会 幹事
(社)地盤工学会 「GIS入門」編集委員会 幹事
(社)地盤工学会 ジオシンセティック工学委員会 委員
(社)地盤工学会 関東支部 会員サービスG 幹事
(社)地盤工学会 関東支部 支部発表会G リーダー幹事
国際ジオシンセティック学会日本支部 幹事
国際ジオシンセティック学会日本支部 行事委員会 委員長
国際ジオシンセティック学会日本支部 論文集編集委員会
委員長
国際ジオシンセティック学会日本支部 表彰委員会 委員
国際ジオシンセティック学会日本支部 新技術委員会 委員
国際ジオシンセティック学会日本支部 新技術委員会第2部
会 部会長

学外学術活動

■ 天野光一 教授

講演：理工学部第2回FDフォーラム「JABEE受審の経験と改善の取り組み：JABEE認定審査に臨んでの社会交通工学科の基本方針」2008.3.6

■ 伊澤 岬 教授

講演：ユニバーサルデザインセミナー「観光のユニバーサルデザイナー—厳島と清水—」／日本福祉のまちづくり学会 2007.6.12

講師：景観デザイン技術研修「美しい国づくりのための景観設計基礎研修」／国土交通省中部地方整備局 2007.6.13-14

書評：「中部国際空港のユニバーサルデザイン」と「前田建設ファンタジー営業部NEO」について／日刊建設工業新聞 2007.10.12

■ 伊東 孝 教授

実行委員長：2007年産業考古学会総会／川崎市 2007.5.12-13

司会：シンポジウム「九州の近代化産業遺産群」／産業考古学会全国大会 北九州市 2007.11.10

講演：軈の浦の歴史的港湾遺産の価値／NPO法人軈まちづくり工房他地元3団体の主催 福山市軈の浦 2007.1.27

船上講師：隅田川の右岸と左岸をめぐるグランドツアー①／勝関橋をあげる会 2007.7.21

講演：近代化遺産・産業遺産の保存と活用／まちづくり文化塾 川崎市 高津市民館 2007.7.27

船上講師：隅田川の右岸と左岸をめぐるグランドツアー②／勝関橋をあげる会 2007.9.22

講演：橋から見る江戸東京のまち①②／ちとせ橋コミュニティ塾（財）しま未来文化財団雑司が谷地域文化創造館 2007.11.7、14

現地講師：橋から見る江戸東京のまち 勝関橋～清洲橋／（財）しま未来文化財団雑司が谷地域文化創造館 2007.11.21

写真展：土木を撮るⅣ かたちひそむ技の気力／土木を撮る会 フォトギャラリーキタムラ 新宿 2007.11.22-28

現地講師：伊東先生と歩く神田川ブリッジウォーク／C-bridge 2007.12.8

■ 岩井茂雄 教授

講師：大島・交通安全管理者講習会 人・車・道の最近の話題／（財）東京交通安全協会 2007.4.4

土木学会全国大会研究討論会話題提供：舗装技術についての啓発活動と舗装技術者への継続教育について／（社）土木学会 平成19年度全国大会研究討論会 研-10、舗装の教育と技術の継承、現状と課題 2007.9

座長：第12回舗装工学講演会「路面評価」セッション／（社）土木学会・舗装工学委員会 2007.12.14

■ 佐田達典 教授

司会：第32回情報利用技術シンポジウム／土木学会 2007.10.25

■ 高田邦道 教授

公開講座：環境負荷の少ない都市交通をめざして「都市交通とマネジメント①・⑤」／平成19年度日本大学秋期公開講座 於：日本大学総合生涯学習センター 2007.10.15、11.12

講演：地球温暖化問題と交通渋滞対策を考える／桜門工業クラブビジネスフォーラム 日本大学理工学部駿河台校舎1号館 2007.10.19

講演：日本大学におけるFD及びSDの組織的取り組み／生物資源科学部平成19年度FD講習会 生物資源科学部大講堂 2007.12.6

講演：信号交差点周辺の道路設計私論／千葉県UTMS推進連絡協議会講演 千葉県警察本部大会議室 2008.2.7

■ 福田 敦 教授

招待講演：リバーサイド市・カリフォルニア大学リバーサイド校／リバーサイド市・仙台市姉妹都市交流50周年記念技術フォーラム 2007.3.21

講演：研究調査報告会／（財）国際交通安全学会 2007.4

講師：JABEEによる教育プログラム認定・審査のための「土木および土木関連分野」、「環境工学およびその関連分野」受審校研修会／（社）土木学会・技術者教育プログラム審査委員会 2007.5

講演：政策課題勉強会／国土交通省国土交通政策研究所 2007.7

招待講演：International Conference and Workshop on Sustainable and Intelligent Transport System（タイ） 2007.8

講演：第1回ワークショップ「交通分野のCDMプロジェクトの実施可能性」／タイ運輸省交通計画政策局・コンケン大学・日本大学 2007.8

講師：JICA集団研修「総合都市交通計画プロジェクト」／（独）国際協力機構 2007.10

招待講演：The 4th Asian Regional Conference on Safe Communities（タイ） 2007.11.21

招待講演：The 4th National Transport Conference（タイ） 2007.11.22

講演：第1回セミナー「交通分野のCDMプロジェクトの実施可能性」／タイ運輸省交通計画政策局・コンケン大学・日本大学 2008.1

講演：第2回ワークショップ「交通分野のCDMプロジェクトの実施可能性」タイ運輸省交通計画政策局・コンケン大学・日本大学 2008.2

講演：土木学会・タイ工学会交流記念シンポジウム「土木工学分野の技術者教育と技術者資格の現状と課題」／土木学会・タイ工学会 2008.3

講演：理工学部第2回FDフォーラム「JABEE受審の経験と改善の取り組み：具体的な教育改善の取り組み」 2008.3.6

講演：第2回セミナー「交通分野のCDMプロジェクトの実施可能性」／タイ運輸省交通計画政策局・コンケン大学・日本大学 2008.3

■ 藤井敬宏 教授

報告：「狛江市の交通改善計画について」／狛江市まちづくり市民会議 2007.3

講演：「福祉交通の現状と課題」／市原市 2007.3

■ 柳沼善明 教授

司会：第16回プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム／(社)プレストレストコンクリート技術協会 2007.10

■ 吉川勝秀 教授

講演：自然と共生する流域圏・都市の再生シナリオに関する考察／研究発表講演会 京都大学防災研究所 2007.3.5

講演：自然と共生する流域圏・都市再生—水・物質循環と流域圏— 脱温暖化社会へのシナリオ／日本学術会議講演会 2007.3.28

総合司会、国際シンポジウムの主催（国土交通省土木研究所と共催）：タイ国チャオプラヤ川・中国長江における流域水管理政策に関するシンポジウム／東京リバーフロント整備センター会議室 2007.9.6

アドバイザー：第8回川での福祉と教育の全国大会 2007.9.7-9

講演会主催（リバーフロント整備センターと共催）：台湾・高雄市の川からの都市再生 講演会／東京・リバーフロント整備センター会議室 2007.10.11

トークライブタイム パネリスト：大阪・水辺の都市サミット／大阪・京阪シティモール特設会場 2007.10.12

報告者、討議者：第9回川での福祉と教育の全国大会開催のためのワークショップ／世田谷区 2007.11.26

討議者：科学技術進行機構・社会技術研究開発センター ワークショップ 2007.12.12

総合討論司会、国際シンポジウムの主催（国土交通省土木研究所と共催）：タイ国および日本の流域水政策（治水政策）に関する国際シンポジウム／日本大学理工学部 駿河台校舎123室 2007.12.13

講演：都市における川からの都市再生／船橋市 葛飾川上部利用計画および基調講演会 葛飾公民館 2008.1.19

進行、総合討論司会：シンポジウムの主催 東京ベイエリアにおける水と緑のネットワーク形成と生物多様性に関するシンポジウム／幕張メッセ 国際会議場 2008.1.23

アドバイザー：セッション2 管理者が語る 利根・鬼怒・小貝川

アドバイザーコーディネーター：セッション3 パネルディスカッション 鮭—河川環境—流域連携／「Welcomeサーモン 利根・鬼怒・小貝」の集い at 下妻 茨城県下妻市 ビアスパークしもつまセミナーハウス 2008.1.26

総合司会：総合討論 一政策課題と研究の推進について—／自然と共生する流域圏・都市の再生ワークショップ 内閣府・実行委員会共催 東京・発明会館ホール 2008.2.20

講演：国土管理、環境マネジメントにおける技術／シンポジウム 日本学術会議主催「自然共生型流域圏の構築と都市・地域環境の再生に向けて」日本学術会議講堂 2008.3.17

講演：河川堤防について／水海道市講演会 2008.3.25

■ 轟 朝幸 准教授

パネリスト：日本・アジアから見た沖縄の可能性と那覇空港の役割／那覇空港調査連絡調整会議 2007.10.6

講座：中高生に対する自転車の交通利用に関するモデル事業／警視庁 2007.10.13、27

模擬授業：世界とつながる空の玄関—成田空港・羽田空港の役割と課題—／神奈川県立新城高等学校 2007.11.1

講座：こうち交通エコロジー教室2007／国土交通省四国地方運輸局・NPO高知市民会議 2008.1.12

■ 小早川 悟 専任講師

パネリスト：授業アンケートの有効利用について／日本大学理工学部短期大学部第1回FDシンポジウム 日本大学理工学部駿河台校舎1号館 2007.7.18

講演：交通現象解析におけるPBL（プロジェクトベースラーニング）／グループワークに関する講演会 日本大学理工学部情報教育研究センター 日本大学理工学部船橋校舎12号館 2007.7.25

司会：道路工学／土木学会平成19年度全国大会Ⅳ部（Ⅳ-180～Ⅳ-186） 広島大学東広島キャンパス 2007.9.13

講演：都市における駐車マネジメント／日本交通政策研究会講演会 道路経済研究所会議室 2007.10.22

公開講座：環境負荷の少ない都市交通をめざして「都市交通とマネジメント②・③・④」／平成19年度日本大学秋期公開講座 日本大学総合生涯学習センター 2007.10.22、10.29、11.5

講演：交通とまちづくり／平成19年度第2回都市計画専門部会講演会 埼玉県南5市まちづくり協議会 鳩ヶ谷市役所 2007.11.22

■ 伊東英幸 助手

講演：理工学部第2回FDフォーラム「JABEE受審の経験と改善の取り組み：ドキュメンテーションにおける改善」 2008.3.6

■ 江守 央 助手

講師：国土交通省中部地方整備局 景観デザイン技術研修「美しい国づくりのための景観設計基礎研修」 2007.6.13-14

■ 斉藤準平 助手

司会：第51回日本大学理工学部学術講演会／日本大学理工学部 2007.12

■ 峯岸邦夫 助手

座長：第34回土木学会関東支部技術研究発表会第Ⅲ部門 2007.3

土木学会全国大会研究討論会話題提供：舗装技術についての啓発活動と舗装技術者への継続教育について／(社)土木学会 平成19年度全国大会研究討論会 研-10、舗装の教育と技術の継承、現状と課題 2007.9

座長：第4回地盤工学会関東支部発表会 2007.11

副座長：第22回ジオシンセティックシンポジウム 2007.12

海外出張

教員名	出張期間／出張目的／訪問国
伊東 孝教授	2007年 8月13日～22日／オーストラリアの歴史的遺産調査／シドニー、キャンベラ、タスマニア（オーストラリア） 2007年 8月23日～9月1日／基調講演「日本における近代化遺産の誕生と展開」、シンポジウム「民衆生活と文化に関する近代遺産」二十世紀民衆生活史研究団／韓国・嶺南大大学校および韓国の近代化遺産の視察／釜山～ソウル（韓国）
岩井茂雄教授	2007年 8月27日～30日／第4回機械工学会議（PACME2007）参加／国立フィリピン工科大学（フィリピン）
福田 敦教授	2007年 1月22日～26日／86 th Transportation Research Board発表／米国 2007年 1月30日～2月5日／フューチャー CDM発掘調査（経済産業省委託事業）／ハノイ（ベトナム）、バンコク（タイ） 2007年 2月19日～22日／(社)海外運輸協力協会平成19年度NGO等支援事業／バンコク（タイ） 2007年 3月20日～24日／リバーサイド市・カリフォルニア大学リバーサイド校、リバーサイド市・仙台市姉妹都市交流50周年記念技術フォーラム招待講演／米国 2007年 4月28日～5月7日／第12回タイ工学会土木部会全国大会発表／ピサヌルーク（タイ） 2007年 5月12日～15日／タイ運輸省CDMプロジェクト実施可能性調査：運輸分野におけるCO ₂ 排出量ベースライン設定に関するワークショップ講演／バンコク（タイ） 2007年 5月31日～6月4日／アジア交通研究学会（ATRANS）の運営会議／バンコク（タイ） 2007年 7月3日～7日／アジア交通研究学会（ATRANS）の運営会議／バンコク（タイ） 2007年 8月8日～24日／International Conference and Workshop on Sustainable and Intelligent Transport Systems講演、ヒヤリ地図づくりワークショップ開催準備、その他／バンコク、コンケン（タイ） 2007年 9月1日～7日／ヒヤリ地図づくりワークショップ開催準備、その他／バンコク、コンケン、チェンマイ（タイ） 2007年 9月19日～25日／アジア交通研究学会（ATRANS）研究プロジェクト審査会／バンコク（タイ） 2007年10月4日～8日／アジア交通研究学会（ATRANS）理事会開催／バンコク（タイ） 2007年11月12日～17日／Road Safety on Four Continent（RS4C）開催／バンコク（タイ） 2007年11月21日～27日／第3回タイ全国交通会議発表／チェンマイ（タイ） 2007年12月18日～20日／タイ運輸省CDMプロジェクト実施可能性調査会議／バンコク（タイ） 2008年 2月15日～16日／タイ運輸省CDMプロジェクト実施可能性調査WS開催／バンコク（タイ） 2008年 2月18日～21日／ATRANS（アジア交通研究学会）理事会開催／バンコク（タイ） 2008年 3月12日～15日／土木学会国際支部タイ分会設立記念講演会／バンコク（タイ） 2008年 3月19日～24日／ヒヤリ地図ワークショップ協議会開催／バンコク（タイ） 2008年 3月29日～4月1日／タイ運輸省CDMプロジェクト実施可能性調査第2回セミナー開催／バンコク（タイ）
藤井敬宏教授	2007年 8月1日～28日／日本大学海外派遣／欧州 2007年 8月28日～31日／交通環境研究室ゼミ合宿／韓国
吉川勝秀教授	2007年 3月15日～22日／イギリスにおける流域圏・都市再生、都市計画調査／イギリス 2007年12月20日～24日／台湾高雄市および台北における川からの都市再生／都市計画調査／台湾
安井一彦准教授	2007年 1月26日～31日／高速道路の渋滞状況の把握／北京市（中華人民共和国） 2008年 2月29日～3月3日／交通情報提供の実態把握／北京市（中華人民共和国） 2008年 3月17日～22日／交通情報提供の実態把握／ソウル市（大韓民国）
石坂哲宏助手	2007年 9月1日～7日／ヒヤリ地図づくりワークショップ開催準備、その他／バンコク、コンケン、チェンマイ（タイ） 2007年3月12日～17日／小型車専用立体交差の調査と関連行政機関へのヒアリング／バンコク（タイ）
伊東英幸助手	2007年 9月24日～27日／第7回東アジア交通学会（EASTS：Eastern Asia Society for Transportation Studies）／大連（中国）
江守 央助手	2007年 6月18日～22日／第11回高齢者・障害者の移動と交通の国際会議（11th international conference on mobility and transport for elderly and disabled persons -TRANSED-）／モントリオール（カナダ）

外部研究資金の受入状況

助成金名・委託元など（研究期間）

研究課題

教員名

財まちみらい千代田「千代田まちづくりサポート」（2007.4～2008.3） 「橋を視点として考える千代田の観光まちづくり」C-bridge	伊東 孝教授（代表）、伊東英幸 他2名
文部科学省科学研究費（2006.4～2008.3） わが国における環境補償制度の促進方策に関する研究	伊東英幸助手、他2名
科学研究費補助金（2006.4～2009.3） 路上駐車による交通混雑の社会的費用測定と交通政策に関する学際的研究	轟 朝幸准教授（研究分担）
科学研究費補助金（2006.4～2009.3） 日本における航空ネットワークの再編成と空港の効率の運用	轟 朝幸准教授（研究分担）
日本大学理工学部情報教育研究センター重点開発研究（2006年～2008年） e-learning system を併せ持つ公務員試験対策データベース教育システムの開発 中山晴幸専任講師、伊藤洋一教授（電気工学科）、泉 隆教授（電子情報工学科）、後藤 浩専任講師（土木工学科）	
(社)日本鉄鋼連盟（2006.10～2008.3） 小型車専用立体交差導入に関する研究	福田 敦教授
株福山コンサルタント（2006.11～2007.3） 大都市交通問題対策検討に関する調査研究	福田 敦教授（研究代表）
(財)国際交通安全学会（2006.4～2007.3） 交通安全教育の手法と評価法の研究（Project H743A, H852A）	福田 敦教授、他4名
(財)国際交通安全学会（2006.4～2007.3） エコロジカルな交通システムの開発途上国への普及方策（Project H745, H854）	福田 敦教授、他3名
(財)国際交通安全学会（2006.4～2008.3） タイにおける交通安全施策への支援（Project H857, H964）	福田 敦教授（研究代表）
武蔵村山市（2007.8～2008.3） 市内循環バス委託調査	藤井敬宏教授
武蔵村山市（2007.10～2008.3） 経済波及効果等調査委託	藤井敬宏教授、轟 朝幸准教授
文部科学省学術フロンティア プロジェクトⅡ-5 「大都市の環境性能と交通制御に関する研究」	藤井敬宏教授、他8名
新日石プラスト株（2007.4.1～2008.3.31） 粒状材に対する強化不織布の耐久性能評価に関する研究	巻内勝彦教授
イビデン株（2007.7.1～2008.3.31） 斜面緑化用短繊維補強土の力学的安定性に関する研究	巻内勝彦教授・峯岸邦夫助手
アイ・トランスポートラボ（2007.6.1～2007.9.30） テーマ名非公開	安井一彦准教授
住友電気工業株（2007.10.1～2008.3.31） テーマ名非公開	安井一彦准教授
パナソニックSSエンジニアリング株（2008.1.7～2008.3.31） テーマ名非公開	安井一彦准教授
国土交通省 競争資金（2007～2009） 東京ベイエリアの水と緑のネットワーク形成	吉川勝秀教授
科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業（JST / CREST）（2003～） 人口急増地域の持続的な流域水政策シナリオ研究	吉川勝秀教授
奨励寄付金（リバーフロント整備センター）（2005～） 自然共生型流域圏・都市再生に関する研究	吉川勝秀教授
法政大学学術フロンティア（2004～） 都市における水辺空間の再生に関する研究	吉川勝秀教授（研究メンバー）
日本大学学術助成金（一般研究（個人））（2007.4～2008.3） 都市交通政策における駐車管理に関する研究	小早川悟専任講師
(財)駐車場整備推進機構（2007.12～2008.3） 都市環境対策としての物流効率化に係る研究調査	小早川悟専任講師

受賞

賞（受賞年月）

教員名

千代田区政功労者表彰／街づくり功労（2008.3）——伊東 孝教授
日本物流学会 日本物流学会賞／「都市の物流マネジメント」日本交通政策研究会研究双書22（2007.9）
——高田邦道教授、小早川悟専任講師 他

平成19年度 学生の受賞等 2007. 1. 1～2008. 3. 31

主催者（受賞年月）／賞などの内容

受賞者氏名

(社)千葉県建築士会、(社)日本建築家協会千葉、千葉県建築設計管理協会、(社)千葉県建築士事務所協会「千葉県建築四会」主催（2007.3）
／第19回千葉県建築四会学生賞 奨励賞……………下田明弘、小津野勝也（デザイン研究室）
(社)地盤工学会関東支部（2007.10）／第2回ソイルタワーコンテスト Artistic 部門1位、総合3位
……………海老名 翔、山中光一、延島啓仁（地盤工学研究室）
第10回理工学部英語弁論大会（2007.11）／3位入賞 ……………平野正偉（交通システム研究室）
(社)土木学会関東支部（2007.11）／第9回「土木とくらし」写真コンテスト 佳作
……………金子翔一（交通システム研究室）
(社)地盤工学会関東支部（2007.11）／優秀発表者賞 ……………山中光一（地盤工学研究室）
第51回日本大学理工学部学術講演会 優秀発表者賞／尾道の都市形成史に関する研究（2007.12）
……………旗野宏介、松田広行、横山由佳（都市環境計画研究室）
日本大学理工学部長賞（2008.3） ……………加藤雪子（交通景観研究室）
日本大学理工学部長賞（2008.3） ……………大島淳之（デザイン研究室）
日本大学理工学部長賞（2008.3） ……………室井寿明（交通システム研究室）

TOPICS

教職員の移動



岸上明子助教が、昨年9月より1年間休職され、リビアで国連が実施しているプロジェクトに国連ボランティアとして参加されています。



伊東英幸助手が、3月末で当学科を退職され、4月より名古屋大学エコトピア研究所で、研究員として勤務されています。自身の研究分野である戦略的な環境アセスメントに関して先端的な研究を行う研究所での勤務ですので、研究で大いに活躍されることを期待したいと思います。

新たな助手として、横山公一さんと田中絵里子さんが採用されました。それぞれ交通景観研究室、都市環境計画研究室に席を置いて学科の教育研究に当たられます（写真は各研究室のページに掲載）。

長きに渡り、教室事務を担当して頂きました越川静子さんが、昨年12月で定年退職されました。越川さんには、教員、学生ともども大変お世話になりました。

越川さんに代わりまして、高野美和子さんに教室事務を担当して頂いております。引継ぎもあり、既に昨年5月より教室事務をお願いしております。また、4月からは、河村絢子さんにも教室事務をお願いしております。河村さんは、当学科の卒業生です。お二人からご挨拶を頂いております（写真は最終ページに掲載）。

平成19年5月から事務を担当しております、高野美和子です。たくさんの皆さんとお目にかかれるのを楽しみにしています。よろしくお願い致します。（高野美和子）

はじめまして。この度事務室勤務となりました河村絢子と申します。

不慣れなことが多く、迷惑をかけることもあるかと思いますが、よろしくお願い致します。（河村絢子）

この4月から轟朝幸准教授が教授に、峯岸邦夫助手が専任講師にそれぞれ昇格されました。

（教室幹事：福田 敦）

平成19年度 行事報告

卒業研究発表会

平成19年度の卒業研究発表会が、平成20年2月23日（土）に、10号館の4教室で開催されました。今年度は、99件（発表者は114人）の発表がありました。会場には、4年生、3年生、大学院生の他に、ご父母も多数出席されました。発表時間8分、質疑時間4分と1年間の集大成を発表するには短い時間でしたが、先生方などから多くの質問があり、白熱した議論がなされ、大変充実した発表会となりました。

4年担任 伊東・轟



卒業研究発表会の様子

修士論文審査会

大学院前期課程の修士論文審査会が、平成20年2月28日（木）9時30分～15時25分まで船橋校舎14号館1432教室で行われ、発表セッションの時間帯にもよりますが、教員・学生合わせて70～80名の参加者でした。発表件数は17件で、前期課程の2年生全員が発表しました。発表時間は15分（発表10分、質疑応答5分）でした。

大学院生は、事前に配付された論文要旨（4ページ）とパワーポイントにより、大学院2年間の研究成果を、持ち時間内でわかりやすく発表していました。また、先生方の質問に対し、発表者より適切な回答があったり、中には議論が少々かみ合わない回答もありましたが、先生方には概ね各自の研究成果を十分理解していただいたようです。

参考までに、指導教授と発表件数は、発表順に高田先生（1件）、福田先生（1件）、轟先生（5件）、藤井先生（5件）、天野先生（3件）、伊澤先生（2件）、吉川先生（1件）、下辺（1件）でした。

後期課程では、2名の博士論文公聴会（平成20年1月16日）が行われ、無事に終了しました。

大学院2年生担任 下辺



修士論文審査会の様子

卒業式・学位記伝達式

日本大学卒業式が、例年通り3月25日（火）に武道館で執り行われました。その後、日本大学大学院理工学研究科としての学位記伝達式が駿河台1号館CSTホールにて、引き続き社会交通工学専攻・社会交通工学科の学位記伝達式が駿河台1号館154教室で執り行われました。学位記伝達式では、大学院修了生と学部卒業生に学位記が授与されました。今年度の大学院修了生は、博士後期課程が2名、博士前期課程が17名で、学部の卒業生は112名でした。併せて、学部卒業生にはJABEEプログラム修了証書と系群科目修得証明書が授与されました。また、優秀な学業成績を修めたとして表彰される優等賞を榎木達郎君、齊藤春香さん、木村美瑛子さんが受賞し、また文化・芸術などにおいて優れた成績を修め、大学の名を高めたとして表彰される学部長賞を室井寿明君、大島敦之君、加藤雪子さんが受賞し、表彰状が手渡されました。天野教室主任から旅立ちにむけて式辞が述べられました。

学位記伝達式終了後は、卒業生・修了生主催による謝恩会が東京ヒルトンホテルで催され、名残惜しい一時を過ごしました。

大学院2年生担任 下辺
学部4年生担任 伊東・轟



学位記伝達式の様子

学位申請論文発表会

論文博士ならびに課程博士の学位申請論文発表会が次のように実施されました。発表会は、発表時間が25分、質疑応答が15分で行われ、それぞれ質疑応答が活発に行われました。発表者と論文題名は次のとおりです。

〈論文博士：平成19年7月31日実施〉

- ・堀川洋子氏（日本大学理工学研究科研究生）：「土地」と「歴史」を重視した近代土木遺産の評価視点に関する研究 —「第一次発電水力調査」（明治43～大正2年度）を軸として—
- ・峯岸邦夫氏（日本大学理工学部助手）：発泡ビーズを混入した軽量化地盤材料の工学的特性

〈課程博士：平成20年1月16日実施〉

- ・Wutikuer Hujiaxi 氏：Study on Maximum Trips under CO₂ Emission Constraint in Developing City（開発途上都市におけるCO₂排出量制限の下での最大トリップ数に関する研究）
- ・室井寿明氏：災害時における情報伝達手段としての車車間通信の利用に関する研究

大学院担当 柳沼

社会交通工学科協議会

JABEE申請上も重要な位置づけとなる社会的外部評価の一環として当学科では平成4年（当時交通土木工学科）より社会交通工学科協議会を設置している。メンバー構成は卒業生ならびに学識経験者等からなる。当学科教員は基本的にはオブザーバーとしてさらに学生オブザーバーも加わって学科についての多面的な視点からの協議を行っている。今年度からは、さらなる充実を図るために年度の中間の10月に郵送による協議を追加した。第15回協議会は平成20年3月12日（水）に駿河台校舎1号館にて行われ、出席者は協議員8名（学科内委員2名含む）オブザーバーとして学科教職員16名（在校生代表3名含む）が参加し、学科の状況、入試情報、就職状況、JABEE申請、新カリキュラムについての議題で話し合いが行われた。本年度はJABEEの中間審査にあたり、授業の改善を進めるべく、学科内で進めている授業改善提案書を協議会に諮りご意見を頂いた。また、来年度からスタートする新カリキュラムで特にマネジメントコースについての議論の中でも、技術者育成の精神を継承した教育が必要であることや、国際化に関する重要なご意見を頂いた。

協議会担当 伊澤

平成19年度

就職状況

平成19年度4年生担任 伊東 孝・轟 朝幸

平成20年3月10日現在の平成19年度理工学部社会交通工学科卒業予定者数、および大学院理工学研究科社会交通工学専攻修了予定者の就職内定状況について、ご報告いたします（表：「就職状況」参照）。

学部卒業予定者は112名、大学院修了予定者は19名（前期17名、後期2名）です。

今年度も売り手市場であったため、学部生では進学14名、次年度就職予定者6名を除く、就職希望者92名全員が内定し、就職内定率は100%となりました。大学院前期課程でも進学2名を除く就職希望者15名全員が内定し、就職内定率は100%です。今年度の就職内定先業種の特徴として、公務員合格者が学部生10名、大学院生5名と昨年度より増加（昨年度実績：学部生6名、大学院生4名）したことがあげられます。また、情報・ソフトは学部生20名と大幅に増加しました。鉄道・バスは、昨年度から若干の増加でした。一方、ここ数年増加してきた物流は学部生13名、大学院生1名と大幅に減少しました（昨年度実績：学部生23名、大学院生3名）。

本学科・専攻では、学生の就職活動の支援のため、下記のようなことを行っています。

1. 就職懇談会（毎年11月頃、大学キャンパス内で実施）

- ・次年度就職希望する学部3年生および過年度生、大学院M1が主な対象
 - ・担任および交通OBによる就職の全体説明、交通OB・OGによる業種別の説明会
 - ・業種別エリアでの個別相談および懇親会
2. 「NU就職ナビ」を利用した求人情報の公開
 - ・最新の求人情報（業種全体、業種別）をリアルタイムで更新・掲載
 - ・随時、教員や学生が所定のIDおよびパスワードで閲覧可能
 3. 学科HP（ホームページ）を利用した求人情報の公開
 - ・従来の学科事務室を通した求人情報の掲示・閲覧過程を迅速・簡素化
 - ・最新の求人情報（業種全体、業種別）をリアルタイムで更新・掲載
 - ・随時、教員や学生が所定のIDおよびパスワードで閲覧可能
 4. 同HPを利用した公務員志望者の交流会窓口の設置
 - ・情報交換の場の設置
 - ・勉強会の啓発および実施

5. 担任および指導教授による個別相談

- ・学部、大学院クラス担任およびゼミナール、卒業研究、修士論文の指導教授による個別相談ならびに調整

6. その他

- ・社会交通工学科同窓会「わだちの会」による就活応援ミーティング

本学科卒業生の業種別就職状況

平成20年3月10日現在

業種	卒業年度	S50~ S59	S60~ H6	H7~H13		H14		H15		H16		H17		H18		H19	
				学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
公務員		235	215	93	27	10	2	4	4	11	5	5	1	6	4	10	5
独法・研究所等		20	33	4	9	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1
建設業		547	435	258	20	27	2	8	3	12	2	12	5	11	2	9	0
コンサルタント		236	271	179	39	8	2	6	4	7	3	8	4	6	3	7	4
情報・ソフト		0	60	109	10	31	1	13	4	21	1	14	0	10	2	20	0
運輸	鉄道・バス	42	23	7	8	2	0	5	1	4	0	10	0	7	1	9	2
	物流	72	71	45	3	17	1	14	0	13	3	18	0	23	3	13	1
製造	橋梁・金属	0	11	7	2	2	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	材料	0	6	13	2	4	0	0	1	3	0	1	0	0	0	3	0
	交通関係	0	29	19	9	1	2	1	2	1	0	1	1	7	1	2	1
不動産		18	17	16	0	5	1	7	2	1	1	3	0	3	0	0	0
保険・金融		0	7	1	0	0	0	3	0	2	0	1	0	2	0	5	0
学校		20	28	14	2	9	3	1	0	0	1	1	1	3	2	2	0
自営		50	27	12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
その他		178	232	68	9	4	0	7	2	31	4	11	1	14	0	12	1
進学		80	185	185	10	22	2	27	0	22	3	21	0	16	0	14	2
未定・不明		111	15	127	14	10	3	26	4	7	0	26	8	13	7	6	2
卒業者数		1,609	1,665	511	164	153	19	123	27	136	24	133	21	123	26	112	19

平成19年度 就職内定先一覧

平成20年3月10日現在

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
進学	日本大学大学院 (社会交通工学)	10	2
	東京大学大学院	2	0
	名古屋大学大学院	1	0
	首都大学東京大学院	1	0
進学 計		14	2
公務員	宇都宮市	1	0
	警視庁	1	0
	東京都庁	2	1
	東京都特別区	2	0
	所沢市役所	1	0
	船橋市	1	0
	八潮市	1	0
	蕨市役所	1	0
	経済産業省	0	1
	埼玉県	0	1
	藤沢市	0	1
	鳩ヶ谷市	0	1
公務員 計		10	5

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
独法・研究所等	運輸政策研究所	0	1
独法・研究所等 計			1
建設業	長谷工コーポレーション	1	0
	大和リビング	1	0
	ジョンソンコントロールズ	1	0
	世紀東急工業	1	0
	大和ハウス工業株式会社	1	0
	鉄道信号	1	0
	第一建設工業	1	0
建設業 計		9	0
コンサルタント	企画開発	1	0
	昭和	1	0
	日鉄環境エンジニアリング	1	0
	パシフィックコンサルタンツ	1	0
	オリエンタルコンサルタンツ	1	0
	八千代エンジニアリング	1	0

業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
コンサルタント	コスモ技研	1	0
	中央コンサルタント	0	1
	リテックエンジニアリング	0	1
	JR東日本コンサルタンツ	0	1
	日本技術開発	0	1
コンサルタント 計		7	4
物流	新開	1	0
	郵便事業	0	1
	アサヒロジスティックス	1	0
	NECロジスティックス	1	0
	鴻池運輸	1	0
	日立物流	2	0
	リコーロジスティックス	1	0
	JALシミュレーションエンジニアリング	1	0
	センコー	1	0
	ヤマト運輸	1	0
	DHL JAPAN	1	0
	東芝物流	1	0
	三菱電機ロジスティックス	1	0
物流 計		13	1
情報・ソフト	CRS	1	0
	ソフトバンク通信三社	2	0
	プランニングネットワーク	1	0
	日立ソーシャルシステム	1	0
	日立SKC	1	0
	NTTデータ東京SMS	1	0
	NTTデータシステム技術	2	0
	NTTデータ東北	2	0
	NEC	1	0
	バルギー・インフォテック	1	0
	ヤマトシステム開発	1	0
	ムトメカトロニクス	1	0
	株式会社セル	1	0
	駅前探検倶楽部	1	0
	SOC	1	0
	神奈中情報システム	1	0
	日信電子サービス	1	0
	情報・ソフト 計		20
鉄道・バス	東武バス	1	0
	東日本旅客鉄道	3	1
	西日本旅客鉄道	1	0
	京浜急行バス	1	0
	神奈川中央交通	1	0
	東海旅客鉄道	1	0
	鉄道・バス 計		9

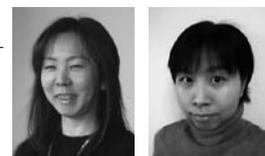
業種	就職先	学部 (名)	大学院 (名)
鉄道・バス	東京メトロ	1	1
	鉄道・バス 計	9	2
製造	山田製作所	1	0
	東鉄工業	1	0
	コアグループ	1	0
	交通システム電機	2	0
	マツダ	0	1
製造 計		5	1
学校	東京都公立学校教員	1	0
	千葉県私立高校教員	1	0
学校 計		2	0
保険・金融	千葉信用金庫	1	0
	関東つくば銀行	1	0
	東京東信用金庫	1	0
	静岡中央銀行	1	0
	イオンクレジット	1	0
保険・金融 計		5	0
その他	日本瓦斯	1	0
	ポプラ	1	0
	バンドラ	1	0
	セブンイレブンジャパン	1	0
	ALSOK	1	0
	真如苑	1	0
	サンリン	1	0
	インテリジェンス	1	0
	東都生活協同組合	1	0
	セイファート	1	0
	プロントコーポレーション	1	0
	東京コココーラ	1	0
	東京電力	0	1
その他 計		12	1
3月大学院受験予定	日本大学大学院(社会交通工学)	2	1
未定・不明		4	1
総計		112	19

7214号室

教室事務室

高野美和子

河村絢子



〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1

Tel. 047-469-5239 Fax. 047-469-2581

<http://www.trpt.cst.nihon-u.ac.jp>